【資料】平成30年度　神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の４項目をその「使命」として位置づけています。

(1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
(2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
(3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
(4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の４つの**「博物館使命の4大要素」**を定め、これらが包含する事業に対する**自己点検評価**を行っています。

１．歴史と文化の継承と研究
２．歴史と文化への窓口
３．人々とともに歩む
４．やさしさと安心の確保

平成30年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の**「総評」**は下記のとおりです。

【総評】

平成30年度の神戸市立博物館事業自己点検評価は、「博物館使命の4大要素」のうち「３．人々とともに歩む」がA評価、他がB評価となった。

「１．歴史と文化の継承」については、資料補修・資料受入事業については所定の役割を果たすことができたが、リニューアルを念頭に置いた、資料保存・調査研究事業との関連性も視野に入れた、あらたな組織体制の構築の必要性も認識された。
「２．歴史と文化の窓口」については、平成30年度が全期間リニューアル工事のため休館となり、博物館での展覧会・普及事業の開催はなかったが、館外展示や職員による講演・執筆活動など、所蔵品や調査研究成果の活用が行われた。令和元年度の海外展示・特別展の準備も順調に行われていることも評価できる。令和元年度はより活発な情報発信を行うことで、リニューアルで生まれ変わる博物館の存在をアピールすることが望まれる。
「３．人々とともに歩む」については、休館中にもかかわらず、学習支援交流員の活発な活動、29年度実績を上回る連携授業を実施するなど、非常に充実した事業を展開できた。大学との連携にいて新規事業が始まったことも評価できる。
「４．やさしさと安心の確保」について、平成30年度は顕著な自然災害の影響を受けたこともあり、設備面の緊急対応と補修の重要性を認識させられた年でもあった。リニューアルオープンに向けて、必要な設備の更新を行うとともに、警備・清掃・運営体制においても万全の体制を構築することが望まれる。

以上の事業自己点検評価において明らかになった問題点・課題を意識することで、令和元年度事業の改善を確実に行いたい。11月2日のリニューアル開館までの期間においては、計画された館外展示・普及・広報の各事業を着実に実行するとともに、資料保存・運営における新しい体制構築にも万全を期したい。リニューアル開館後に博物館で行われる特別展および常設展示（神戸の歴史展示・コレクション展示）においても、来館者が新しい驚きと高い満足感を得られる内容を目指し、新たな設備と手法により博物館の使命を果たしていきたい。

1. 歴史と文化の継承と研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　補修・資料受入事業については及第点であるが、保存・調査研究については充分に機能していない面が見られたことは残念である。博物館を運営していくなかでの根幹作業である調査研究、その成果に基づきながらの展示、保存・補修、資料の受け入れを進めていくことが望ましい在り方であるが、その体系づけかつサイクルが充分に機能しているとは言い難い。改善案に基づき、次年度以降の課題として取り組んで行くことが望まれる。学芸員個々の努力も必要ではあるが、組織体制として担保すべきことも肝要であろう。

1-01　資料受入（購入・寄贈・寄託）

評価　A 優れている

評価の詳細　限られた予算の中で、小型資料の購入に限定された面はあるが、来年度のリニューアルオープンではこのような資料をも充分に活用できる展示環境ができるため、これも視野に入れれば、かなり充実した内容の資料・作品を追加することができたと考えられる。ただし、諸般の事情により当館の性質から乖離する資料作品を受け入れたことも事実であり、当館の収集方針の確認と、受入プロセス（特に、寄贈者への最初の意向確認）の徹底が求められる。

1-01-01　どのような資料を受け入れましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
【29年度実績】 ・購入：18件20点 ・寄贈：4件432点 ・寄託：3所蔵者　15件25点	【購入】　　12件46点 ［歴史］ ・COMMERCIAL REPORTS FROM HER MAJESTY’S CONSULS IN JAPAN.1868　1件1点／・CORRESPONDENCE RESPECTING THE REVISION OF THE TREATY ARRANGEMENTS BETWEEN GREAT BRITAIN AND JAPAN　1件1点／・With the Compliments of the Season and Best Wishes 1936　1件1点／・文久遣欧使節のハーグでの国王訪問式典における式辞を掲載したポスター　1件1点／・神戸川崎銀行牡丹会紀念絵葉書　1件3点／・摂津国有馬郡平田村書上帳　1件1点／・神戸川崎銀行正面写真　1件1点／・神戸市委託布引橋架設工事関係綴ほか近畿地方建設局水害復興事業関係資料　1件30点／・兵庫北関入船納帳（複製）　1件 ［美術］ ・切子ガラス平鉢　1件1点／・神戸川崎男爵家蔵品入札目録　1件2点／・修来印譜　1件3点 【寄贈】　　40件219点 ［歴史］・印刷機一式　1件15点／・神戸関係レコード　1件4点／・須磨地籍図　1件16点／・タチバナ制帽店関係資料　10件157点 ［美術］・平井昭夫氏旧蔵　近代絵画・工芸資料　27件27点 【寄託】　　1所蔵者21件21点 ・垣屋文書　21件21点	【購入】 ・博物館の活動にふさわしい資料・作品を探し出し、展覧会や調査研究での活用を図れる資料・作品について、館蔵品に加えることができた。 【寄贈】 ・神戸ゆかりの資料・作品について館蔵品に加えることができた。 【寄託】 ・神戸在住の所有者の資料について、寄託契約を新たに締結でき、資料保全を図ることができた。	【購入】 ・リニューアル等の業務に追われるあまり、購入予算を活用するための購入候補の探索が充分に行うことができなかった。業者からの資料紹介や、古書目録に頼ることが多く、学芸員が館蔵品の現状を把握した上で、自らの目で購入候補を探し出し、館蔵品に加えることが充分にできていない。 【寄贈】 ・当館の活動方針にふさわしい受贈を必ずしも行えていない。 【寄託】 ・寄託契約の更新手続きを怠っていた。

1-02　資料保存

評価　C やや劣る

評価の詳細　リニューアル工事を実施しながら資料の保存を図らねばならないという、博物館としては平常ではない特殊な状況での保存環境の維持を求められた年度となった。工事による空気環境の悪化などの影響によるものか、結果的には害虫や大きな温湿度変化が検出されるなど、年間を通してマイナス面が垣間見える状況となった。
モニタリングや清掃の体制としては、学芸課のルーチンワークとして定着しつつあり、今後とも引き続き、より効率的・効果的な手法を常に探求していく必要がある。
特に、2019年度にはリニューアルオープンを控え、博物館全体の保存環境別のゾーニング設定や、モニタリング箇所の更新などIPMの刷新を図る予定で調整を進めており、リニューアル後にはこれまで以上に博物館の資料保存体制をより強固なものとしていきたい。

1-02-01　収蔵庫･展示室の保存環境は適切な状況を保てましたか？

自己評価　C やや劣る

P課題と目標

【30年度の課題と目標】
・展示室、収蔵庫の定期的な清掃を実施する。
・リニューアル工事に伴う環境変化に留意し、収蔵庫、展示室の環境を把握する。
【29年度実績】毎月第3水曜日に全学芸員で収蔵庫10・11の清掃／4階収蔵庫トラップ交換：49箇所、9回実施。夏季生物環境調査：2回実施。／殺虫作業4回実施／燻蒸2回実施

D実施内容

【収蔵庫10・11の清掃】
　・毎月第3水曜に実施。本格的な建築工事が始まった8月頃からゴキブリなどが確認されたため、月2回の清掃を実施。
【収蔵庫、展示室内の温湿度測定】
　・週1回、4F収蔵庫10・11、3F特別展示室1、2F南蛮美術館室、特別展示室2の室内及び展示ケース内、1Fびいどろ史料庫コレクション収蔵庫の温湿度を測定。
　・展示ケース内の工事開始により、展示室ケース内の測定を中止。
　・びいどろ史料庫コレクション収蔵庫は、除湿機2台を常時稼動して室内の湿度を40％前後で維持。6月～10月まで除湿機の排水除去を開館時、閉館時に行い、除湿機を24時間稼動。
【生物環境調査】
　・7/10、9/11の2回実施。
【害虫防除薬剤散布】
　・9/18　館内水回りを中心に薬剤散布を23箇所で実施。
【燻蒸処理】
　・11月（寄贈資料の受入）：業者作業倉庫にて実施（エキヒューム、48時間燻蒸）。
　・3月（新規購入資料を中心）：当館BFハロゲンポンプ室にて実施（エキヒューム、48時間燻蒸）

＜緊急的な取り組み＞リニューアル工事に伴い、年度当初予定していなかった事案が発生した。
【殺菌剤散布】地階講堂壁面に発生したカビ除去、及び３階作業室３に発生した結露によるカビ除去
【展示室の清掃】特別展示室1、南蛮美術館室のケース内壁面撤去に際して、ケース床面下部の清掃を実施。この部分の清掃は開館以来初めての実施。リニューアル後は、ケース内床面に点検口を新設し、定期的に清掃を実施する予定。

自己評価の詳細 プラス面

・毎週の環境モニタリング、生物環境調査、害虫防除薬剤散布、資料の燻蒸処理、及び4F収蔵庫の清掃について、当初の予定通り実施できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアル工事の影響によるのか、施設内での害虫発見や空気環境の変化などが顕著であった。

・特別展示室内の温湿度の変化が目立つ時期があったが、原因の特定までには至らなかった。

1-03　資料補修

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　配当された予算の範囲内で、６件の資料補修が実施でき、一定の成果をあげることができた。補修の必要な博物館資料の全体像はまだつかめていないが、総合資料調査の進行にともなって中長期的な修復計画のあらましも次第に見えてくるものと思われる。ただし、屏風などの大型資料については年間予算だけでは対応できず、資金確保の新たな方策も模索する時期に来ている。

1-03-01　どのような資料補修を行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・昨年度実施した総合資料調査を踏まえた、資料補修を実施する。 ・昨年度より資料補修の選定時期を早めて、修理期間を可能な限り長く設ける。 ・総合資料調査を行うなかで、来年度以降を踏まえた中長期的な資料補修計画を立てる。	【スケジュール】 5月　補修資料選定：29年度の総合資料調査を踏まえ、補修候補を募る／6月　補修資料の決定／7月　事務手続き、資料の引渡し／3月　資料納品、次年度の補修候補調整 【補修資料】 ①石崎融思筆「長崎港図」：解体修理、クリーニング、表具新調 7/11作品引渡し→8/31修理監督(1)→11/16修理監督(2)→12/16修理監督(3)→1/31修理監督(4)→3/23納品 ②（年未詳）卯月29日付豊臣秀吉朱印状：本紙汚れ、折皺除去、旧補修紙除去、新補修紙補填、太巻新調 7/20作品引渡し→11/7修理監督→3/27納品 ③小松益喜「神戸北野町・桃色の家」、C.B.Bernard「三宮」、菖蒲大悦「菖蒲」： 絵具の亀裂、欠落、浮きの補修、抗菌及び防カビ処理。 12/14作品引渡し→2/12納品 ④重要文化財　狩野内膳「南蛮屏風」： 台湾・國立故宮博物院南部院区への貸出にかかる応急処置 （当館収蔵庫にて、絵具層の剥落止め、本紙料紙に糊差しを実施） ⑤その他　小規模補修 ・近代絵画・古地図資料のマット装 ・歴史、近代絵画、工芸品の収納箱製作 ・和綴本の綴紐修理	・修理、レプリカ作製を実施した資料は、予定通り、3月末までに納品された。 ・予算枠の柔軟な運用によって、神戸の歴史展示資料の複製資料が製作できた。	・資料の補修に予算を執行することができず、一部資料のレプリカ資料の製作に振り替えた。 ・当該年度の補修資料候補しか選定できておらず、中長期的な補修計画は現状で策定できていない。そのため、資料の補修が場当たり的となり、予算配分に見合った執行ができていない。

1-04　調査研究

評価　C やや劣る

評価の詳細　「六甲」に関しての目標がいくつか設定されたものの、まだまだ調査研究活動が活発に展開できていない。そうしたなかでも、具体的な調査活動の意識付けを行い、調査活動を開始できたという事実を評価しておきたい。
今後、現地調査をはじめとして、計画性をもった調査研究の進捗を図り、基礎資料の蓄積の結果を集大成することによって、展覧会の開催へとつないでいくことができれば理想的である。
なお、来年度以降の展覧会のスケジュールの調整が実現し、予算の確保とともに、展覧会開催に向けた継続的な調査を進めていく方向性が明確となった点を評価しておきたい。

1-04-01　調査研究活動はどのように行いましたか？

自己評価　C やや劣る

P課題と目標

(1)六甲に関する館内の資料を確認し、リスト化する　（画像の有無もあわせて確認）
(2)六甲に関る文献、先行研究を確認する。→平成31年12月までに実施
(3)資料調査
　①六甲山系の遺跡の調査（仏教以前の六甲）：6月より数回にわけて踏査
　②摩耶山天上寺宝物総合調査
③保久良神社総合調査　　④大龍寺、無動寺、丹生宝庫なども順次調査
(4)六甲関連地図の作成→随時更新

D実施内容

【六甲に係る調査】
(1)六甲に関する館内の資料を確認し、リスト化する作業を実施した。
(2)六甲に関する文献、先行研究を確認し、リスト化作業を断続的に行った。
(3)資料調査：天上寺宝物総合調査：7/31実施 所蔵仏画20点、仏教系世界図5点、文書1点の調査を行った。
(4)展覧会開催に向けた調査について予算要求を実施し、来年度の調査予算を確保した。

【六甲以外の「地域」に係る調査研究】
　具体的な調査テーマの設定をより明確にしなかったためか、確実な成果をあげるまでには至っていない。
　上記した六甲とともに、次々年度以降に開催予定の展覧会(2020年 和ガラス展、2021年 伊能忠敬展、2022年 川崎正蔵・長春閣展)について、展覧会のスケジュール調整と予算要求を行い、各担当者による今後の調査計画策定・実施に結びつけることができた。

自己評価の詳細 プラス面

・展覧会に向けたタイムテーブルが策定できた。
・天上寺宝物の総合調査が実施できた。
・六甲関係の遺跡地図の作製を進めることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・予算の執行として、調査項目の内容を明確にしていなかったこともあり、計画通りに資料調査を進めることができなかった。

2. 歴史と文化の窓口

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　休館中にも関わらず、関大博物館や九州国立博物館と協働して館外展示を実施し、当館のコレクションを紹介できたのは今年度の大きな成果の一つであろう。また故宮南部院区の展示準備、オープン後の特別展の準備作業もあわせて行えているのは、望ましい姿であろう。

展示関係のリニューアルについては、『リニューアル基本計画』に基づきながら学芸員の研究成果に基づき進められている点は評価したい。一方で、情報・図書の整理については少し遅延しているようである。情報コンテンツの発信については、工夫を凝らしている点が看取できるので、この点をリニューアル後のHPなどの刷新事業に向けて活かして欲しい。

また、特別利用等の成果によってデジタル・アーカイブの拡充、基金の繰り入れを遂行しているのは、将来を見据えた方向性が示されているものと考えられる。継続する方向で進めるべきである。

2-01　展覧会

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　平成30年度はリニューアル休館中であることから、国内外の博物館や大学と連携し、館蔵資料・作品の展示を計画・実施した。

関西大学博物館で開催した「神戸市立博物館選　地図皿にみる世界と日本」（7月2日～8月5日）については、同館としては高い入館者数が得られ、展示や解説内容に高い評価を得られた。

九州国立博物館で開催した「国宝　銅鐸絵展」（7月10日～9月2日）では、国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈群を全点展示し、神戸市の学芸員2名が講座・講演会に出向いた。銅鐸出土数の少ない地域での展示や講座・講演会への学芸員の派遣は、当館や神戸市について認知度を高めるよい機会となった。また、九州国立博物館との共同研究により、最新計測機器での計測が行われ、新たな知見を得ることができた。その成果は展示に反映することができ、来館者のより深い理解に結びついたと考える。

令和元年6月6日～9月8日に開催予定の「國立故宮博物院南院で開催予定の「交融の美-神戸市立博物館精品展」は、2011年4月20日～6月5日に韓国・ソウル大学美術館で開催した「神戸市立博物館名品展」以来となる、国外で館蔵資料を紹介する大規模展覧会である。3月までに協定書の締結、出品資料の輸出準備、図録原稿の作成までを終えたが、輸送・展示業者の未確定など台湾側に課題が山積しており、作品の安全な輸送・展示環境の確保のために早急に解消にむけた調整をはかる必要がある。

また、リニューアルオープンにむけて、「神戸市立名品展」（令和元年11月2日～12月22日）、「建築と社会の年代記」展（令和2年1月11日～3月1日）、「コートールド美術館展」令和2年3月28日～6月21日）の開催準備を進めた。

「神戸市立博物館名品展」については、出品作品の選定、展示図面案の作成、共催する神戸新聞社との事務調整も逐次行い、4月には実行委員会を立ち上げられる段階まで準備を整えることが出来ている。「建築と社会の年代記」展についても、特別協力を得る竹中工務店、共催する朝日新聞社、神戸新聞と協議を重ね、5月には実行委員会を立ち上げられる段階まで、開催準備を整えることができた。出品作品・資料についてもリストの確定にむけ、調査を行うことができた。

「コートールド美術館展」については、コートールド美術館との間での出品作品リストについては確定した。また、本展では国家補償を活用するため、そのための書類準備・提出し、文化庁のヒアリング準備も終えている。ただし、所蔵先への調査機会を得られておらず、図録執筆にも関与出来ていない点など、企画内容に関われていない点は反省点である。

2-01-01　関西大学博物館での館外展示はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・当館のリニューアル工事期間を利用した館外展示の一つとして、関西大学博物館と共催で開催する。

・館外での展示を実施することで、当館の古地図コレクションの魅力を多くの方々に知ってもらう機会とする。

・展示環境、展示台、演示具などを確認し、資料にとって最適な展示方法をとるとともに、来館者にとって「みやすい」「わかりやすい」展示空間をつくる。

D実施内容

【展覧会名】関西大学博物館2018年度夏季企画展「神戸市立博物館選　地図皿にみる世界と日本」
【会　期】2018/7/2～8/5　29日間　※大雨の影響のため2日間臨時休館
【会　場】関西大学博物館（大阪府吹田市山手町）　特別展示室
【主　催】関西大学博物館、神戸市立博物館
【入館者数】4,107人
【関連事業】関連講演会：7/14（75名）　講師：小野田一幸、中山創太
【展覧会図録、リーフレットの作成】
・担当者で総論、コラム、解説を分担。
※いずれも無料。図録は、関係者及び関連講演会参加者に配布。リーフレットは来館者に配布。
【展　示】
・脆弱な紙資料、漆器は、温湿度がより安定していたエアタイトケースに展示。
・地図皿を展示する皿立ては、展示台に固定し、ある程度地震に対応できる展示方法をとった。
・作品によっては、キャプションに拡大図を掲載したり、解説パネルを掲示するなど、わかりやすい展示を心がけた。
【広　報】
・6/1　市政記者向け資料提供
・小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館へのポスター掲示、チラシ配布の協力依頼
・新聞社事業部への記事掲載依頼（7/12　朝日新聞に掲載）

自己評価の詳細 プラス面

・館蔵品をより多くの方々に知っていただく良い機会となった。入館者4,107人は、関西大学博物館にて、通常開催している入館者数に対して多いとのこと。

・来館者のアンケートでは、展示、解説の内容についてわかりすやすかったとの意見をいただいた（81％）。

・アンケートには、朝日新聞に掲載された展覧会の紹介記事をみられて来館された方が多かった。会期前に「日本扶桑国之図」（広島県立歴史博物館寄託資料）が発見されたことも、来館者増につながったか。

・図録、広報物は、大きなスケジュール変更もなく作成することができた。館内配布リーフレットは、地図皿の地図情報や意匠に関する簡略な解説を付して、来館者の中心となる学生でも楽しめる内容のものを作成した。

自己評価の詳細 マイナス面

・館内配布用のリーフレット掲載図版に誤りがあった。

・出品作品には、近年実施した補修資料も含まれていたが、博物館活動の一つでもある「資料の保存」について紹介することができなかった。

2-01-02　九州国立博物館での館外展示はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・当館のリニューアル工事期間を利用した館外展示の一つとして、九州国立博物館と共催で開催する。 ・伝香川県出土銅鐸を東京国立博物館から借用して展示し、４連作といわれる著名な絵画銅鐸の内、現存する３つの絵画銅鐸を日本で初めて並べて展示し、絵画銅鐸の比較や変遷をよりわかりやすくする。 ・平成22年度から継続してきた九州国立博物館との共同研究の一貫で、展示とあわせて桜ヶ丘銅鐸と伝香川県出土銅鐸のX線CTスキャナ・3Dデジタイザ両方の最新機器による計測を実施する。 ・3つの絵画銅鐸を直接比較検討するための熟覧・調査を行う。	【展覧会名】特集展示「国宝銅鐸絵画」展 【会　期】2018/7/10～9/2　55日間 【会　場】九州国立博物館（福岡県太宰府市石坂4-7-2）　4階文化交流室関連第1室 【主　催】九州国立博物館・神戸市立博物館 【入館者数】62,191人（4階文化交流室への入室者） 【関連事業】 ①ミュージアムトーク「特集展示『国宝　銅鐸絵画』」進村真之（九州国立博物館交流課）7/18 九州国立博物館　4階文化交流展示室1室 参加者30名 ②記念講演会　「絵画銅鐸の魅力」橋詰清孝（神戸市教育委員会文化財課担当係長）8/5　九州国立博物館　1階ミュージアムホール 参加者80名 ③ミュージアムトーク・プレミアム「桜ヶ丘銅鐸の絵画」山本雅和（当館学芸課担当課長）8/7　(1)11時～（40名）(2)15時～（50名）　九州国立博物館　4階文化交流展示室1室　④なりきり考古学者体験　銅鐸拓本スペシャル　8/12　(1)10時～　(2)13時30分～　九州国立博物館　1階あじっぱ及び4階文化交流展示室 参加者各6名 【展覧会図録への共同執筆】　「国宝　桜ヶ丘銅鐸・銅戈について」 【展　示】最新機器による計測成果も展示パネルに使用し、実物の目視では良く見えない部分もわかりやすく解説。 【資料保全】九州国立博物館へは余裕ある日数を設けて搬入・搬出。展示期間中や最新機器による計測時以外は収蔵庫内に保管し、移動や開梱は行わない。 【広報】・九州及びその周辺での広報活動は、九州国立博物館が担当 ・7/6市政記者向け資料提供／・小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館へのポスター掲示、チラシ配布の協力依頼 【熟覧と調査結果】8/6「伝香川県出土銅鐸」東京国立博物館蔵について、九州国立博物館資料調査室にて、桜ヶ丘５号鐸・４号鐸と比較しながら肉眼による資料調査を実施。 ・これまで、桜ヶ丘５号鐸⇒桜ヶ丘４号鐸⇒（谷文晁旧蔵鐸）⇒伝香川県出土鐸　という変遷が想定されていたところであるが、谷文晁旧蔵鐸の文様の観察から、絵画区画が２条の圏線によって区画されている点は、桜ヶ丘５号鐸との強い親縁性を窺えるため、上述した変遷順が変更となる可能性が指摘できる。 ・桜ヶ丘４号鐸と伝香川鐸の両者の形態特徴と法量が極めて近似する点が指摘でき、伝香川鐸は桜ヶ丘４号鐸を明らかにモデルとして製作されたと推定される。 ・桜ヶ丘４号鐸で渦巻文が描かれた横帯３帯分を取り除き、その分を絵画を描く区画に変更し、６区のデザインとして製作したと推定できる。 ・鉄鐸とまで呼ばれたくらい、伝香川鐸が黒い色調を示すのは、やはり青銅の成分の違いによるのか。	・入館者62,191人は4階文化交流室全体への入館者数であるため参考数値にはなるが、銅鐸の出土数が少ない九州の方々に、神戸市で出土した桜ヶ丘銅鐸について知っていただく良い機会となった。 ・関連事業として、神戸市から2人の学芸員が九州に赴き、記念講演会やミュージアムトーク・プレミアムを行い、数多くの聴講者を得ることができた。 ・九州国立博物館による最新計測機器による成果も展示パネル等に盛り込まれており、来館者のより深い理解に結びついた。 ・東京国立博物館所蔵の「伝香川県出土銅鐸」と桜ヶ丘５号・４号銅鐸の熟覧調査の結果、これまでの観察結果を裏付けることができた。	

2-01-03　國立故宮博物院南院での館外展示はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
展示リストの確定 出品作品の基本情報の作成 出品作品の解説文などの執筆 日本側輸送業者との連携（梱包方法、輸送方法の協議など） 展示予定作品の状態確認と、保全処置の実施 文化庁など関係機関との連絡調整	【展覧会名】「交融之美―神戸市立博物館精品展」 【会　期】2019/6/6～9/8（予定）　［前期］6/6～7/21　［後期］7/26～9/8 【会　場】國立故宮博物院南部院區S203・S101室 【主　催】國立故宮博物院南部院區、神戸市立博物館 【実施内容】 ・4月　故宮側の要望（南蛮美術を加えて2室展示とする）に応え、重要文化財　狩野内膳「南蛮屏風」を含む新しい出品案を提示。 ・5月　故宮側の学芸員4名が来日、出品候補作を実見のうえ、絞り込む。 ・7月　文化庁調査官による重要文化財（狩野内膳「南蛮屏風」）の状態調査。軽微な修復処置で貸出は可能と判断。 ・10月　展示リスト（当館から155件の作品を貸出）を確定。 ・10月　重要文化財　狩野内膳「南蛮屏風」の応急補修 ・11月　協定書締結 ・12月　当館担当者1名が故宮南院を訪問、S101・S203展示室とトラックヤードを確認。 故宮側の担当者と図録・輸送方法について協議。2月に各業者の決定、これにともない、日本側の輸送業者も 決定。S204室での神戸市・博物館広報展開を想定。 ・1月　図録用写真撮影実施 ・2月　日本側輸送業者確定。梱包用クレートの編成シミュレーションに入る。 ・2月末　図録原稿提出 ・3月　図録用写真データ提出 CITESに関連する象牙など軸首交換作業（巻子5点・掛軸30点）に着手	・当初当館からの提案で始まった海外展示であったが、故宮側からの提案で南蛮美術なども追加され、双方の思惑が合致した大型展示に拡張されるに至った。故宮側からも25点の関連作品の展示も決定し、東西文化交流展としては世界的に前例のない内容となる見込み。 ・故宮南院は平常でも月5万人の入場者があり、追加料金無しで入場できる本展は、全期間で15万人という、当館所蔵品展としては前例のない観覧者数が期待できる。 ・図録製作に必要な原稿・写真の引き渡しが予定通りに完了した。	・31年3月末時点でも台湾側の輸送・展示業者が未定。そのため、5月末からの輸送・展示作業に関連して、さまざまな不調が生じる可能性がある。 ・近年CITES（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）に関連する規制が強化され、象牙・紫檀・黒檀などが付属する美術品は原則輸出が不可能となった。そのためこれらの素材を軸首としている多くの軸装絵画作品の軸首交換作業が発生してしまった。この作業はそれぞれの作品の保全に微妙な影響を与えるものであり、回避すべきものだが、展覧会の内容水準を確保するために、苦渋の選択を迫られる形となった。

2-01-04　「神戸市立博物館名品展」はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
展覧会の開催時期、調査研究の進捗などは、各展覧会の状況によって異なる。着実な展覧会実現のためには、各展覧会で以下の作業を必須とし、実施内容の記述項目とする。 ・企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む） ・ドリームリストの作成 ・展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理 ・資料調査、出品交渉 ・広報、関連事業計画	【展覧会名】リニューアル記念「神戸市立博物館名品展―まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美―」 【会　期】2019/11/2～12/22（予定） 【主　催】神戸市立博物館、神戸新聞社 【後　援】NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西、Kiss FM KOBE（予定） 【協　賛】（公財）日本教育公務員弘済会兵庫支部、（一財）みなと銀行文化振興財団（予定） 【企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む）】 企画書（案）、予算書（案）作成済 【ドリームリストの作成】 出品リスト確定済。約150件の所蔵品を特1・南蛮・特2・コレクション展示室・神戸の歴史展示室を活用して展示予定 展示図面も作成済 【展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理】 進捗中。神戸新聞社との業務分担とスケジュール表に基づき、事務を進行 第1回実行委員会は2019/4/16予定 展示作業は10月中旬を予定 【資料調査、出品交渉】 館蔵品のため、交渉なし。展示に向けた調査は担当が逐次行ってきた。 【広報、関連事業計画】 計画策定済	・リニューアル関係の業務が多々あるなかで、開幕に向けて現時点で行うべき作業を概ね進捗することができた。 ・若手学芸員が担当者として、自主企画展にかかる業務を学ぶ機会となっている。	

2-01-05　「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み―」はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
展覧会の開催時期、調査研究の進捗などは、各展覧会の状況によって異なる。着実な展覧会実現のためには、各展覧会で以下の作業を必須とし、実施内容の記述項目とする。 ・企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む） ・ドリームリストの作成 ・展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理 ・資料調査、出品交渉 ・広報、関連事業計画	【展覧会名】「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み―」 【会　期】2020/1/11～3/1（予定）　43日間 【主　催】神戸市立博物館、朝日新聞社、神戸新聞社 【特別協力】竹中工務店、公益財団法人竹中育英会、公益財団法人竹中大工道具館、公益財団法人ギャラリーエークワッド 【企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む）】 企画書（案）予算書（案）作成済 【ドリームリストの作成】 出品リストおよび展示図面について調整中。 【展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理】 進捗中。第1回実行委員会は2019/5/15開催予定。展示作業は12月末～1月初を予定。 【資料調査、出品交渉】 竹中工務店資料室、香雪美術館を調査。出品リストが確定次第出品交渉を行う。 【広報、関連事業計画】 広報は、朝日新聞社、神戸新聞社と協力して進めている。関連事業計画は策定済。	・来館者にとってよりわかりやすい展示方法や、興味をひく関連事業を実施できるよう、本展の出品資料の主要な所蔵元である竹中工務店と綿密な打ち合わせを重ねている。	・特別協力の竹中工務店との綿密な調整が必要になるため、出品リストおよび展示図面の作成が当初予定より遅れている。

2-01-06　「コートールド美術館展」はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
展覧会の開催時期、調査研究の進捗などは、各展覧会の状況によって異なる。着実な展覧会実現のためには、各展覧会で以下の作業を必須とし、実施内容の記述項目とする。 ・企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む） ・ドリームリストの作成 ・展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理 ・資料調査、出品交渉 ・広報、関連事業計画	【展覧会名】「コートールド美術館展　魅惑の印象派」 【会　期】2020/3/28～6/21（予定）　75日間 【主　催】　神戸市立博物館、朝日新聞社、（NHK神戸放送局、NHKプラネット近畿：予定） 【後　援】　ブリティッシュ・カウンシル、外務省（申請予定） 【協　賛】凸版印刷、三井物産、鹿島建設、ダイキン工業、大和ハウス工業、東レ（予定） 【企画書（案）及び予算書（案）の作成（主催体制案含む）】 ロンドンのコートールド美術館（Coutauld Gallery)は、美術史及び保存修復において世界有数の研究機関となるコートールド美術研究所の美術館として、1932年に設立。創設者のひとりである英国の事業家サミュエル・コートールドが収集した作品を中心とするコレクションは、世界屈指のフランスの印象派、ポスト印象派のコレクションと評されている。本展は、コートールド美術館が改修のために休館となる機会に世界4都市で開催される巡回展。マネ《フォリー・ベルジェールのバー》、セザンヌ《カード遊びをする人びと》、ゴーガン《ネヴァーモア》をはじめ、絵画、彫刻を60点展示。 【所蔵館代表者の訪問】 6月16日にコートールド美術館館長のエルンスト・ヴァゲリン氏が来館。当館を視察。 【リストの作成】 コートールド美術館により、リストアップ済。 【展覧会会期から逆算したロードマップ作成、スケジュール管理】 2019年2月、出品作品確定／4月、作品輸送プラン検討、差し押さえ用書類を文化庁に提出／5月国家補償申請／ 5/27国家補償（文化庁）ヒアリング／2020年2月末、神戸会場展示図面決定／3/23～26神戸会場展示／3/27内覧会／ 3/28～一般公開／6/21閉幕／6/22～25作品撤去、輸送。その他の詳細は今後決定。 【資料調査、出品交渉】 調査・出品交渉については、共催する朝日新聞社と東京都美術館が行っている。 【広報、関連事業計画】 2019/5/17記者発表会（東京）／5月、公式ホームページ公開（予定）／その他の詳細は今後決定	所定の事務手続きも順調に行われ、国家補償制度の利用のための文化庁ヒアリングへの準備もほぼ終了した。 来館したコートールド美術館館長に開催会場として充分な好印象を残すことができた。	スケジュールがあわず、ロンドンの所蔵先美術館を訪問/作品調査する機会を逸した。そのため展覧会そのものや図録執筆への参加ができず、当館にとっては事実上の「貸会場的」展覧会となった。

2-02　研究発表

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　学芸員全員が同じレベルでの研究発表等の活動ができているという評価はできない。また、目標としていた研究発表そのものの定義づけについて、いまだ曖昧なままとなっており、その評価が鈍るところである。明確な定義づけについて、改めての検討を必要となっている。
そうした中で、概括的にみて、発表の件数こそやや伸びたものの、執筆・講演の件数は概して減じており、取り組みが積極的に実施できたとは言いがたい。リニューアル休館という特殊な期間であったことを差し引いても、さらに学芸員各自での研究研鑽が望まれるところである。
なお、リニューアル休館中の取り組みとして、当館の収蔵資料を学芸員が発信できる機会が設定でき、有効な発信ができた。この発信による効果は数値化できないものの、概ね好印象を持っていただいた旨を漏れ聞いているところである。
一方で、学校連携事業により平素多忙を極める指導主事によって、博物館が実施してきている学校連携の授業について、執筆・講演・発表を積極的に展開でき、これまでとは違った視点からの事業の発信ができたことは大いに評価できる。

2-02-01　学芸員による執筆活動（論文･記事･書籍）、講座･講演はどのようなものがありましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【平成29年度実績】地域史関連の研究発表 34件（執筆10、講演24）、地域史以外の研究発表47件（執筆26、講演17、発表4）
【平成30年度目標】
・「研究発表(論文・記事・書籍など)、執筆（図録解説以上）、講演（1ｈ以上）、発表（OR・GTなど普及啓発的、事業紹介的なものを除く）」について、該当事業の見直しが必要。

D実施内容

■学芸員
【執筆】27件
『神戸市立博物館研究紀要』　3件
関西大学・神戸市立博物館編『関西大学博物館2018年夏季特別展　地図皿にみる世界と日本』　3件
神戸女子短期大学食物研究会編『食物と健康』　2件
『神戸市立博物館　館蔵品目録　考古・歴史の部　35　写真・絵葉書Ⅷ』　2件　　ほか、17件
【講演】38件
勤労市民センター　11件、ミュージアム講座　6件、学芸員と神戸を巡る　3件、
婦人大学　2件、公民館　2件、関西大学講演会　2件　　ほか、12件
【発表】6件
科研研究会、歴史地理学会、第12回神戸アート・アーカイブプロジェクト、横浜近現代史研究会、
民衆史研究会大会準備報告、民衆史研究大会
【リニューアル休館中の館蔵資料紹介】
神戸新聞「神戸市立博物館コレクション　私のイチ押し」　12件
広報誌KOBE「神戸歴史探訪」　6件
【その他】3件
座談会、監修、鼎談

■指導主事
【執筆】東洋出版社『初等教育資料』　1件
【講演】兵庫県小学校教育研究会・神戸小学校教育研究会　1件
【発表】全日本博物館学会・博物館教育研究会　1件

自己評価の詳細 プラス面

・博物館外での講演を実施し、休館中ながら博物館の活動やコレクションを市民に知っていただく機会を提供できた。
・休館中の新しい執筆活動として、神戸新聞と広報誌KOBEの連載を行い、博物館のコレクションを紹介することができた。
・学芸員のみならず、指導主事による執筆、講演、発表が行われた。
・研究が地域史に関わるか否かという区分をなくし、学芸員の研究発表を一覧することができるようになった。

自己評価の詳細 マイナス面

・休館により特別展の図録製作や講演が行えなかったためか、執筆、講演ともに昨年度より件数が減少した。
・目標に項目の見直しが必要とあげたが、できなかった。さらに、学芸員の間で項目の理解が統一されていないことが明らかになった。

2-03　特別利用

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　博物館所蔵資料が、年間どれだけ外部で利用され、認知されているかという意識が、社会において高まっているように思われる。実際に本市でも、本年度の市会で、所蔵品活用を軸にした他館との交流連携を求める意見も出ている。当然、資料・作品の完全な保全が絶対的な前提条件となるが、このリニューアル期間のような長期休館時に連携できる博物館・美術館を増やす努力も必要かもしれない。画像利用・画像提供については、その公共性・学術性・商業性の区分が微妙な案件もしばしば見られ、電子書籍などあたらしい形態のコンテンツも増えている。これらの社会の変化に柔軟に対応できる利用設定のあり方を常に意識したい。また、31年度の館外貸出の再開に際しては、従来まで未整備に等しかった貸出規定を整えたい。

2-03-01　特別利用･画像利用･画像提供の利用状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【平成29年度実績】
特別利用申請48件716点　画像利用申込193件677点　画像提供申込596件
【平成30年度目標】
申請および申込に対する手続きを円滑に行う。
画像利用料金の設定を再検討し、利便性の向上に努める。

D実施内容

【特別利用実績】
36件1976点
【画像利用実績】
175件711点
【画像提供実績】
364件562点

自己評価の詳細 プラス面

・特別利用申請に対する手続きを円滑に行った。
・画像提供について料金設定を検討をして、より利用しやすい料金設定にすることができた。
・画像利用料の一部を資料購入費として基金へ繰り入れした。
・画像利用料を用いて館蔵資料の新規撮影を行い、デジタルアーカイブを拡充することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・特別利用申請件数、画像利用申込件数、画像提供申込件数のいずれも昨年度より減少した。リニューアル工事によって特別利用の日程調整が難航したり、館外貸出の受付を休止していたためか。
・画像提供業務について、協議を要する申込がみられたため、利用設定の検討が必要。

2-03-02　博物館資料の館外貸出の状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【平成29年度実績】18か所137点
【平成30年度目標】
・資料の貸出業務に関する規定・規約を設定する。
・調書を整理し、博物館として共有できる環境を設定する。
・開館後の館外貸出について、時期や周知の検討を行う。

D実施内容

【平成30年度実績】　7件149点
・神戸港振興協会（2018/4/1～2019/3/31）
　神戸海洋博物館“歴史から見た神戸港「平清盛と大輪田の泊」”　平清盛坐像　1点
・市長室秘書課（2018/4/1～2019/3/31）
　神戸市役所1号館15階第2応接室　西村功「ベンチの夫婦」1点
・公立大学法人神戸市外国語大学（2018/4/2～2019/5/30）
　図書館1階ラーニングコモンズ　印刷機一式　4点
・神戸市立小磯記念美術館（2018/4/21～7/8）
　特別展「神戸市立博物館洋画セレクション」　高橋由一「初代玄々堂像」等　94点
・関西大学博物館（2018/7/2～8/5）
　企画展「神戸市立博物館選―地図皿にみる世界と日本」　金彩染付日本図皿等　37点
・熊本県立美術館（2018/8/4～9/24）
　特別展「細川ガラシャ」　都の南蛮寺図、教会祝日暦　2点
・MOA美術館（2018/10/5～11/4）
　特別展「信長と天正遣欧使節」　聖フランシスコ・ザヴィエル像等　10点

自己評価の詳細 プラス面

・館外において当館所蔵品を主体に据えた展覧会を開催し、多くの資料をみていただく機会を提供できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアル工事期間にかかる貸出停止のため、29年度に比べて貸出件数が減少した。
・継続して貸出している資料について、状態確認ができていない。
・リニューアル工事による館外貸出しの休止が周知されておらず、30年度以降も新たな貸出の依頼があった。
・貸出にかかる規程が設けられていない。

2-04　情報コンテンツの発信

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　「紀要」「目録」は、博物館の研究施設としての情報発信を担う重要なコンテンツであるが、近年前者における執筆者や分野が固定される傾向がある。幅広い分野の学術情報を提供できる態勢を整えたい。予想されたことだが公式HPへのアクセスが半減となっているが、常設・特別展示があってこその博物館であることを強く認識させられた。31年度は早々から、建築工事によって生まれ変わった各区画の様子を紹介することを軸に、HP・SNS発信を強化し、11月の再開までの機運を盛り上げていきたい。本年度は自然災害が頻発したが、このような状況での緊急情報発信のありかたが意識された１年でもあった。

2-04-01　出版物（紀要･年報･目録等）はどのように発行しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・紀要：今年度の学芸員の調査研究成果を第35号としてまとめ、刊行する。
・目録：今年度の学芸員の資料調査成果を第35号としてまとめ、刊行する。
・年報：前年度の博物館活動を第34号としてまとめ、博物館ホームページにてPDF公開する。

D実施内容

【紀要】
5/20刊行案承認→6/26エントリー締切→10/31原稿締切→3/31刊行
塚原晃「神戸市立博物館所蔵「聖フランシスコ・ザビエル像」の保存状態と表現解釈」
石沢俊「川崎美術館研究（一）　文献資料からたどる川崎美術館と神戸川崎男爵家コレクション」
中山創太「串珠杯の酒宴記録帖をめぐって」

【目録】
5/20刊行案承認→6/26エントリー締切→10/31原稿締切→3/31刊行
美術の部　「浮世絵版画 総インデックス８　画者不詳・肉筆作品・下絵類・版木」
考古・歴史の部　「写真・絵葉書Ⅷ」

【年報】
5/30構成案及び担当分担案承認→6/27原稿締切→6/28～8/3PDF編集→8/4ホームページ公開

自己評価の詳細 プラス面

【紀要】
・館蔵品及び神戸の歴史・文化に関する調査研究の成果を3本の論文として刊行できた。

【目録】
・美術の部、考古・歴史の部とも、館蔵品整理、調査研究の成果を刊行できた。
・若手学芸員が目録を製作する経験を持つ機会となった。

【年報】
・前年度分の活動について、滞りなくHP公開できた。

自己評価の詳細 マイナス面

【紀要】
・執筆者がこの数年で固定化している。若手学芸員の積極的な執筆が行われていない。

【目録】
・考古・歴史の部では、写真・絵葉書の縦横を考慮せず、すべて横長でレイアウトし、ページ数を決定した。経理契約後にこの事態を確認したため、縦長の写真・絵葉書を小さく掲載することになった。

【年報】
・PDF編集作業は担当一名で行うには作業量が多く、原稿締切から公開までに時間を要した。

2-04-02　公式HPでの情報･コンテンツ発信はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・休館中に実施する館外展示について、それぞれ特設のページを設けて情報発信に努める。
・休館中に実施する普及事業について、イベント情報を更新し、募集情報にリンクさせて情報発信に努める。
・博物館リニューアルと連動して、HPの大幅なリニューアルと所蔵品公開の在り方の見直しをはかる。

D実施内容

【公開したコンテンツ】
・館外展示情報
「神戸市立博物館選　地図皿にみる世界と日本」（関西大学博物館）、「国宝　銅鐸絵画」（九州国立博物館）について、
当館ホームページから各館公式ホームページへのリンクを貼る形式にした。
・普及事業の案内
トップページにイベント情報のコーナーを設け、11事業の募集情報にリンクさせた。
【トップページのアクセス数】
・246,653件（3/31現在）　※29年度　578,213件
※リニューアル休館により、アクセス数が大幅に減少
【所蔵品公開件数】
・当館ホームページ名品撰：233件／・文化遺産オンライン：1,243件／
・Google Arts and Culture：129件　※Google Arts and Cultureは新規資料登録の受付停止中
【本年度で際立ったコンテンツ】
・特別展の展覧会予定、リニューアル概要のアクセス数が多かった。
【ＨＰリニューアル】
・リニューアルオープンに向けて、HPのリニューアル計画を進行中。RFIを2回実施。
・神戸の過去の景観をとらえた絵画、写真等を公開する景観資料データベースを作成。
リニューアル後の情報コーナーで見られるように準備を進めている。

自己評価の詳細 プラス面

・イベント情報について、募集情報を公開しだいホームページの更新を行った。

自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアル休館に伴い、博物館ホームページへのアクセスが昨年度の2分の1以下に減少している。

2-04-03　SNSではどのように情報発信を行い、どのような反響を得られましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【フェイスブック】（2018/3/13時点）
・フォロワー3,044人／投稿数136件／平均リーチ数1,426リーチ／最多リーチ数：4/21「遥かなるルネサンス開会式」5,957
・展覧会ごとのフェイスブック投稿回数：「遥かなるルネサンス」23回（75日間）／「開国への潮流」24回（44日間）（企画展含む）／「ボストン美術館の至宝展」28回（83日間）
【ツイッター】（2018/3/13時点）
・投稿数140件／インプレッション1,035,128件／フォロワー8,226人／最多いいね：9/14「織田信長像修理」112

D実施内容

【SNS公開計画の策定】
・フェイスブックについて、4/25の学芸会議で学芸員に原稿執筆と日程を依頼（全36回）。

【フェイスブック】（3/29時点）
・投稿数：84件／いいね数：3,056／1日のオーガニック平均リーチ数：(725+296)÷2＝510／フォロワー：3,188人
・リーチ数が多かった投稿
9/8【兵庫勤番文書の足跡】：2,273／5/5【6/16と8/18に「大人のための浮世絵摺り入門講座」を開催します。】：2,264／
12/26【チョコレートでつくる卑弥呼の三角縁神獣鏡】：2,096／
9/22【太山寺で「阿弥陀さまと光の雨」のワークショップを開催します】：2,066／
8/9【細川ガラシャ展で、「都の南蛮寺図」などを展示】：1,857

【ツイッター】（3/29時点）
・投稿数：86件／インプレッション数：538,848／フォロワー数：9,178人
・特にいいね数が多かった投稿：
6/19「このたびの地震により大変大きな被害がありました地域のみなさまに謹んでお見舞い申し上げます。」：129／
11/24【明治時代の錦絵に描かれたバッスルドレスを着てみませんか？】：124／
7/11【九州国立博物館　特集展示「国宝　銅鐸絵画」展】：98／
5/8【6/16と8/18に「大人のための浮世絵摺り入門講座」を開催します。】：77／

自己評価の詳細 プラス面

・投稿数について、博物館休館中であるため、展覧会関連情報の発信が０となった。しかし、昨年度の投稿数実績の136件のうち75件が展覧会関連、その他のテーマが61件という数字から考えると、今年度は、学芸員の意欲的な原稿執筆により、展覧会以外のテーマ（一部は外部の展覧会関係）でもって、84件の投稿がなされた。

・投稿写真について、各執筆担当者の工夫が見られた。

・自然現象によるイベントの中止等について、必要かつ迅速な情報発信ができたと思われる。

自己評価の詳細 マイナス面

・イベントが少なくなると、発信の間隔が1週間以上空くことがあった。

2-04-04　広報活動はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・博物館だよりを秋、春2回発行する。 ・休館中の事業に関る資料提供を適当な時期に遅滞なくおこない、情報発信に努める。 ・取材申込みに対して適切対応し、情報発信に努める。 ・広報誌など紙媒体のツールも利用し情報発信に努める。	【年間スケジュール】 リニューアル休館のため、未発行 【博物館だより】 No.114：8/24発行（5,000部）　No.115：3/22発行（5,000部）関係機関・Mカード会員等へ配布 【展覧会ポスター・チラシの送付】 リニューアルオープン事前告知チラシ（10,000枚）　関係機関・Mカード会員等へ送付 【展覧会の招待状送付】 リニューアル休館により、発行・送付せず 【広報紙など掲載】 リニューアル休館により、展覧会情報の掲載はなし。 普及事業の広報の他、ガイドブック等へ休館情報提供などを中心に、下記のとおり対応。 ・神戸市の広報媒体 「あじさい通信」（2回）／「教育委員会だより」（3回）／ 「広報紙KOBE」（6回）普及事業情報のほか、隔月で「神戸歴史探訪」へ寄稿、市内の文化財や名所について発信。 ・外部の媒体における定期掲載 「KOBE C情報」：5回、普及事業情報を掲載 「新美術新聞/美術の窓」：休館情報、入館者数（休館につき0名）を提供。 ※アートウォーク、日本博物館協会、兵庫県博物館協会、せとうち美術館ネットワークにも参加し、 ホームページへの掲載や、ガイドブック製作・配布に対応した。 ※その他ガイドブックなど単発の掲載情報提供、校正依頼への対応：33件 【取材対応】 記者資料提供：15件 取材申し込み（館蔵資料・普及事業）：7件	・博物館だより 例年通り、秋・春の年2回、遅れることなく発行・配布することができた。リニューアル工事に伴い、展覧会情報が掲載できなくなることに代えて、リニューアルに関する情報や普及事業の報告などを充実させ、積極的に情報発信をすることができた。 ・広報誌など掲載 無償で利用できる広報媒体について積極的に活用し、展覧会情報に代えて普及事業の情報を発信することができた。照会や校正依頼に対して、遅れることなく迅速な対応ができた。「ボストン美術館の至宝展」終了後は、リニューアル休館期間の掲載と旧情報の削除という対応を随時行っている。 ・取材対応 展覧会情報に代えて、普及事業に関する記者資料提供を積極的に行うことができた。「相楽園明治倶楽部-異人館で暮らす-」（12月23日開催）については、資料提供によって、複数のイベント紹介サイトから掲載依頼があった。	・博物館だより 製作業務を見積合わせによって委託しているが、業者によって仕上がりに差がある。 No.115については、ページごとに文字量の基準があいまいとなっていたことから、文字校正の段階でページごとの行間・文字の大きさの統一がとれないことが発覚し、膨大な作業量を要し、納品の遅れも発生しかけた。文字の分量や大きさ、行間の基準を統一したフォーマットが必要であり、入稿以前に確認できる体制を整備しなければならない。 ・広報誌など掲載 普及事業に関する情報掲載において、開催時間の記載ミスがあった。入念な校正をしなくてはならない。 展覧会開催がないため、掲載依頼が昨年度と比べ激減した。 休館に入ってから一年以上が経過するものの、展覧会開催に関する一般の方からの問い合わせ電話が日々かかってきている。

2-05　展示関係のリニューアル

評価　A 優れている

評価の詳細　『リニューアル基本計画』に謳った「まちに開かれた博物館」「わかりやすく伝えるための再構築」を果たすべく整えた「詳細実施設計」を基にした展示製作事業が推進できた。

現実的には、博物館資料をケース内に展示できる段階にはいまだ及んでいないため、最終形が見えていないところは否めないが、担当各自の豊富な経験に基づいた成果が大きく花開くものと想像できる。

１階の「神戸の歴史展示」では、従来の展示空間（約1,345㎡）からは床面積を大きく減じ（約460㎡）、集約化するとともに、刷新を図った計画が推進できた。実物資料の点数の減少はデジタルコンテンツの活用による効果的な展示構成で補う予定である。また、旧居留地を主とした近代を大きく取り上げることにより、当館の立地を活かしながら、これまで以上に子どもたちに神戸の歴史に親しんでもらえるよう、わかりやすい展示に努めたところである。さらに、１階の無料開放によって、どのような反響がみられるか、その結果はオープン後の評価にかかっている。なお、地域文化財展示室の中期的な展示計画の策定が望まれる。

２階のコレクション展示も新たな試みであり、当館コレクションをこれまで以上にお楽しみ頂ける反面、有料化の解釈とともに観覧者の方々の評価は未定である。今後は多角的な視野から、定期的にコレクション資料作品を入替えることによりコレクション展示を構成していくこととなる。一方で、年間計画に則って、海外展などの特別展示を開催していく厳しいスケジュールのなかで、中長期的に担当学芸員のモチベーションを維持しながら、一定レベルのコレクション展示を展開していく厳しさに疲弊することなく継続していけるどうかが危惧される。

2-05-01　1階　神戸の歴史展示はどのように進捗しましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示計画を立てる。 ・大人から子供まで楽しむことのできる分かりやすい展示を設計する。 ・新たな歴史展示での活用を見据えた、資料収集、複製製作を行う。 ・歴史展示、地域文化財展示室における展示計画の充実を目指し、館内外での調査、研究を進める。	7月より展示設計の受託事業者である（株）丹青社と、定例的に総合定例会議・分科会を実施し（月2回、原則第2・4木曜）、下記のとおり進捗した。コーナーの名称を「神戸の歴史展示室」に決定した。 【展示資料選定】 実際の展示図面に落とし込みながら、リニューアルオープン時に展示するもの、展示替え候補とするもの、に分類したリストを作成した。リニューアルオープン時の展示資料について、実見・実測を行い、展示台・支持具についても協議を進めた。 ・主な展示資料（リニューアルオープン時） 原始：五色塚古墳出土 鰭付円筒埴輪、弥生土器ほか（灘区 伯母野山遺跡）　古代・中世：略平家都遷、海東諸国記 近世：羽柴秀吉領知判物（椎井家文書）、朝鮮通信使兵庫津上陸・宿割図 近現代：摂州神戸海岸繁栄之図、国産第一号パーマネント機　など 【グラフィック製作】 館蔵資料画像の選定、館内外での新規写真撮影、館外資料画像の借用、原稿執筆、地図・年表の作成を進め、次年度より校正作業を進めることとなった。 【映像コンテンツ製作】 各時代の導入映像用に、素材となる資料写真やイメージ図を収集、提供し、イラスト執筆を進めている。テーマ解説映像については、使用する画像の選定が完了し、原稿を提出した。「神戸開港シアター」については、シナリオ作成・声優の選定が完了し、次年度4月には音声収録を行うことが決定した。 【模型製作】 「五色塚古墳復元模型」「居留地模型」を、模型製作業者に搬出し、一部について造り替えを完了した。これらに加え、新規製作となる「兵庫津 湊のにぎわい模型」、「居留地模型」に設置する人形について、3月に視察を行った。 【資料収集・調査】 古代・中世コーナーでの活用を目指し、「兵庫北関入船納帳」（京都市歴史資料館蔵、重要文化財）の調査を実施。その成果をもとに、同資料の複製を製作し、3月25日に納品された。近現代コーナーのグラフィックに活用するため、国産第一号パーマネント機の寄贈者（故人）の関係者を探し出し、実際に使用していた当時の写真を借用させていただくことができた。	・定期的に受託業者との協議を行うことで、展示の具体的イメージを固めることができた。 ・継続して行っている調査、研究をもとに、グラフィックや映像コンテンツの原稿を執筆、入稿し、校正までの段取りをつけることができた。 ・写真の借用や、複製の作製を行い、必要な素材の収集が概ね完了した。	・各担当者が執筆した原稿について、語句や表記の統一がなされていない。校正にあたり、全体を通したルールを定める必要がある。 ・地域文化財展示室の入り口高さが想定よりも低くなってしまった。展示ケースの解体を検討せねばならない。 ・リニューアルオープン後の具体的な展示替え計画が策定できていない。

2-05-02　2階　コレクション展示はどのように進捗しましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・指定品展示を前提とした展示室施工を委託業者、文化庁、東京文化財研究所と協議のうえ、適切に進めていく。 ・リニューアル後、向こう1年間を目途とした展示計画を各室担当者が立案し、展示資料、展示替え時期などの共有を図る。必要な展示台、演示具、キャプション等の準備を進める。	展示基本設計・詳細設計の受託事業者である（株）丹青社と、７月以降定例的に総合定例会議・分科会を実施し（月2回、原則第2・4木曜）、下記のとおり進捗した。 【部屋全体の名称】 ・「コレクション展示室」で決定 【各部屋の名称】 ・「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」「聖フランシスコ・ザビエル」「美術・古地図」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「考古・歴史」に決定 【建築、設備、電気工事】 ・計画通り進捗（平成31年３月末に完工） 【展示製作業務】 ・各分野ごとで協議を重ね、展示台、演示具、キャプション、パネルの製作を進行中 ・空気環境調査は、６月末竣工、引渡の前にパッシブセンサーで測定する旨を文化庁へ報告済。 文化庁から東文研へ情報共有いただけるとのこと。 パッシブセンサーで測定前に改めて文化庁へ確認の上、測定データを提出する。	・各部屋とも、初回展示を入念に準備を進めるのみでなく、その後の展示計画についても策定ができた。	・展示作業を実際に行っていないため、具体的な作業や流れをイメージできていない。

2-06　情報・図書関係のリニューアル

評価　C やや劣る

評価の詳細　図書の再配架作業は、建築工事の進捗を考慮した関係で、全体の4割程度にとどまった印象がある。定期刊行物の電子化の状況をにらみながら、当館の職務に必要な書籍の選別を積極的に行う必要がある。
リニューアルにより、従来の図書室から「情報コーナー」移行するにあたっては、一般利用者が閲覧できる書籍が半分以下となることが想定されている。11月の再開後にこの変化が入館者にどう評価されるか気がかりだが、これを補完する存在として情報コンテンツの充実は不可欠である。
館内の情報コンテンツと、博物館HPのリニューアルにより、従来とは異なる次元の所蔵品情報公開のための「容れ物」が整うことになるが、31年度は、これらで公開する情報そのものの整備に努めたい。

2-06-01　情報発信関係はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・情報センター：リニューアル予算のなかで、いかに充実したコンテンツを製作できるか。 ・ホームページリニューアル：次年度のリニューアルオープンに合わせて、ホームページリニューアルに必要な手続き、予算関係の準備を行う。 ・ホームページ上の所蔵品コンテンツ進捗：びいどろ史料庫コレクションをはじめ、新収蔵品の情報発信を図る。 ・データベース整備：リニューアル業務の中で、いかにスムーズにデータベース作業を実施するか。	【情報コーナー】 ・「情報センター」の仮称から、正式名称は「情報コーナー」に決定 ・6月～　展示製作業務委託先の丹青社と協働の上、コンテンツ製作 ・「コレクション検索」「神戸の歴史マップ」「描かれた神戸、写された神戸」「映像ライブラリ」の4種のコンテンツを展開 【ホームページリニューアル】 ・6月　情報化戦略部との協議 ・7月　31年度予算要求に伴うRFI実施 ・12月　RFI再実施 ・3月　委託審 【ホームページ上の所蔵品コンテンツ進捗】 ・進展なし 【データベース整備】 ・館蔵品の新規受入に伴うレコード登録を随時実施 ・情報コーナーの「コレクション検索」「神戸の歴史マップ」「描かれた神戸、写された神戸」に関連する編集作業を実施	【情報コーナー】 ・設計時よりもコンテンツの内容、公開画像数、情報量が大幅に増え、充実したものとなってきている。 【ホームページリニューアル】 ・31年度のリニューアル業務発注に向けた準備を進めることができた。 【ホームページ上の所蔵品コンテンツ進捗】 ・なし 【データベース整備】 ・館蔵品の受入手続とデータベース登録を一連の作業として周知したことで、最新情報を登録することができた。 ・情報コーナー向けの情報もまとめる作業を進めることができた。	【情報コーナー】 ・設計時よりも充実した内容を求めた結果、予算面でリニューアル業務全体へ影響を与えた。 ・コンテンツ公開に向けて、特定分野の学芸員に負担が大きくなってしまった。 【ホームページリニューアル】 ・情報化戦略部との協議、業者へのヒアリングが充分に行えず、委託審査委員会に向けてスケジュール調整が難しかった。 ・さらに、予算面と実現したい内容、実現可能な技術を有する業者の調整が難しかった。 【データベース整備】 ・リニューアルのさまざまな業務のなかで、データベース関係の確認、入力、編集作業は、負担が大きかった。

2-06-02　リニューアルを見据えた図書の整理はどのように行いましたか？

自己評価　C やや劣る

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・リニューアル工事に伴い移動した書棚の設置、及び図書の再配架を行う。 ・リニューアル後に新設されるカフェスペース、情報センター、体験学習室に配架する図書の選定。 ・近・現代美術（工芸品を除く）に関する図書の移管手続きを行う。 ・古雑誌、広報物など定期的に廃棄作業を行う。	【書棚の設置】 ・作業室3に棚を設置し、博物館、大学の研究紀要、目録等を一部配架 ・30年度後半に、WEB公開されている紀要、目録については地下収蔵庫で保管または廃棄を提案。 【本の移動、配架】 ・南蛮美術館室に仮置きしている図書の一部を移動 ・旧ボランティア室等に利用頻度の高い図書（「東洋文庫」、「ものと人間の文化史」、各都道府県市町村史）を配架 ・文献室の配架図書の点検を一部実施 ・WEB公開されている研究紀要、目録等の今後の受け入れ方針を提示 図版が未公開の場合もあるため、一部保管したいとの希望があった ・近現代美術に関する展覧会図録、書籍等は、小磯記念美術館、神戸ゆかり美術館へ保管場所を移動	・リニューアル工事前に、展示室内に仮置きした書棚の設置を完了した ・昨年度策定した受入図書の考え方を踏まえて、近現代美術に関する展覧会図録の移管、年報、雑誌などの未登録化などを実施し、保管図書の削減を実施した。	・南蛮美術館室に仮置きしている図書の再配架できなかった。 ・リニューアル後の各部屋に配架する図書の選定ができていない。

3. 人々とともに歩む

評価 A 優れている

評価の詳細　学校との連携を含めた教育普及活動については、従来から当館の活動の柱としているところでもある。休館中であり、施設が活用できないという制約があるにも関わらず、十二分に展開できた点に大きな評価を与えたい。休館中ゆえに取り組めた事業もなかには含まれていると考えられるので、リニューアル後には、事業を精査して取り組んで行く方向性を見出し、館からの発信事業として次年度以降の展開を図って欲しい。

3-01　学習支援交流員

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　平成30年度はリニューアル中のため、使用できる館内設備も限定され、館内での事業や学校団体などの来館もなく、学習支援交流員の活動には大きな制約があった。また、休館中、新規募集を停止していたことから、学習支援交流員数も減少している。

こうした前提のもとでも、今年度はスケジュールや役割分担等を明確にし、学習支援交流員・職員間で共有し、連携して定例会・研修等を実施できた。また、この間、ボランティアルームの清掃・整備、備品やワークショップ材料など活動基盤の確認・整備ができた。博物館の企画事業への学習支援交流員の積極的な参加もあり、各事業の円滑な実施に結びついている。

また、担当学芸員による勉強会は、学習支援交流員活動にとって重要な学習の機会となっている。

今年度は、学習支援交流員による「居留地案内」ワークショップを月1回のペースで実施したが、ポスタ-掲示やフェイスブックによる広報を積極的に行ったことで多くの参加者を得た。また、内容についても改善を加え、参加者の高い満足度を得ることができた。

リニューアルオープンにむけて、新規ワークショップの開発も進めているが、今年度は中間的な経過発表まで実施することができた。再開館後の学習支援交流員の活動の活性化に結びつけていきたい。

課題としては、新規募集を停止していたことによる学習支援交流員数の減少がある。充実した活動の実現、活動の継続性確保のためには十分な交流員数を要することから、次年度には募集を再開することが求められる。

また、学習交流員制度導入から10年が経過したが、現状にそぐわない規約も見られるようになってきたことから、規約の見直し・改正も必要である。

3-01-01　学習支援交流員の人数･定例会･研修の実施状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
［前年度実績］ ・学習支援交流員　45人（内、アドバイザー11人） ・定例会：原則毎月第1金曜日（祝日／臨時休館日は変更）　12回、349人／勉強会：6回、165人／研修：2回、38人	【定例会】 ・毎月第1金曜日午後2時から実施（ただし、6月と1月は第2金曜日に実施） ・全12回、延べ247人参加(各回平均20.6人) ・定例会後の勉強会　2回、延べ67人参加／居留地勉強会　2回、延べ32人参加／研修　1回、29人参加 【現在の活動員数】 ・学習支援交流員　17人、学習支援交流員活動アドバイザー15人　合計32人。今年度になって、13人減。リニューアル休館に伴い、30年度の新規募集は行わなかった。 ・毎週火曜日の活動について、必要資料の作成、文房具等の購入、ワークショップ開発にかかる博物館資料に関する質問を各担当が受け付けるなどした。 【独自の活動と職員の関与】 ・新規ワークショップの開発検討会には妨げにならない程度に参加。月1回定期的に開催している居留地案内については、職員が同行し記録写真を撮影、反省会まで立ち会った。居留地案内に関するFacebook、ポスター等の作成等の広報も定期的に行った。 ・リニューアルオープンまでの館のＰＲ目的として積極的な活動はしなかった。5月の館外ワークショップの際、日程が決定しているいくつかのワークショップについてのチラシを作成して配布したが、職員担当者間から「対応出来る人数には限界があり、あまり周知すると人が増えすぎて対応するのが大変になるのではないか」という意見があり、以後は作成しなかった。	・年度当初、事務分担に関して年間スケジュール、役割分担表を作成し、それを学習支援交流員と共有することで、職員、交流員間が緊密に連携した組織的な定例会・研修の運営を実施することができた。 ・ボランティアルームの不要物処理、整頓、清掃を職員、ボランティア双方で協力して実施し、活動の基盤となる空間を確保するとともに、備品、ワークショップ材料を整理、確認できた。 ・学習支援交流員の自主性を尊重しつつ、必要資料の作成や文房具やワークショップ開発にかかる必需品の購入、ワークショップ開発検討会への参加など、必要なフォローを実施した。 ・交流員からの要望をもとに、当館コレクションや神戸の歴史について、担当学芸員による勉強会を行うことで、交流員活動に欠かせない学習の場を提供することができた。	・平成30年度はリニューアル工事休館中のため、館内施設の使用に大幅な制約があり、新規募集を行えなかったことから、構成人数が減少した。充実した活動の実現、活動の継続性の確保のためには募集を再開することが望ましい。 ・規約が一部実態と乖離してきている。

3-01-02　学習支援交流員が主体となる講座･ワークショップ･ツールの開発はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
【ワークショップ】　6回　学習支援交流員67人　参加者195人 【「摺り体験」「拓本体験」】35回　学習支援交流員295人　参加者990人 【一般向けの居留地案内】　4回　学習支援交流員28人　参加者45人 【上記ワークショップ準備・新ツール検討会等】　36回　学習支援交流員271人 【新規開発ツール】　居留地パズル／扇子入れ／ボスター再利用紙袋　／自主ワークショップ／居留地案内等（開催日）／全活動のべ人数1,849人／全活動のべ回数237回	【新規ワークショップ開発打ち合わせ会】1回（9/11）、15人参加 ・リニューアルオープンに向けた新規ワークショップとして、9本の新規企画を開発中。 ・居留地案内の見直しとルール化を実施。 ・新規ツールは開発していないが、ワークショップに必要な消耗品やバナーの再利用によるエプロンや運搬用バッグを新規作成した（子供用エプロン10枚、子供用腕カバー20組、梵天運搬用バッグ、掛軸運搬用バッグ、ターポリン古地図運搬用バッグ、乾拓キット運搬用バッグなど）。 【講座・ワークショップ】 ・居留地案内：月1回、計13回（外部依頼2回を含む）　学習支援交流員117人　参加者114人。事前打ち合わせ、反省会実施。 ・クロスメディアイベントでの木版多色摺り体験ワークショップ：4/27　会場：KIITO　参加者168人 ・東灘うはらまつり：5/19　会場：住吉公園グランド　「伊能忠敬の歩測体験」参加者182人／「勾玉つくり体験」参加者 28人 ・広報：「申込者数が増えすぎると対応できないのではないか」という職員の意見もあり、積極的にな広報を見合わせた。今年度は、当初から学習支援交流員の講座やワークショップは計画されておらず、またツールを周知するための広報も行わなかった。定期的に実施する居留地案内についてはFacebookとポスターで告知した。 ・館外での活動：参加依頼があったものについては積極的に取り組んだ。広報は、Facebookで告知した程度。今年度は、昨年度新規開発したツールのストック作成や居留地ガイドの見直し、修正を実施し、参加者に一定水準のプログラムを提供することに努めた。あわせて新規ワークショップの開発中。 ・以下9本の新規ワークショップについて開発中。企画発表会を3/1日に実施。 ①親子で遊べるたのしいおりがみ教室／②さいじき古代体験／③紙しばい“フランシスコ　ザビエル”／ ④ミニ屏風作製／⑤ミニ銅鐸作製／⑥地図絵皿作製／⑦居留地クイズラリー（小学4年生～中学3年生対象）／ ⑧居留地クイズラリー（中学生～一般対象）／⑨居留地のひみつをさぐろう　夏バージョン ・今後の予定としては、順次各企画のシミュレーションを実施し、所蔵品との関連や歴史説明の内容についてチェック、実際に作品制作を実施して所要時間を計測する。リニューアルにむけて、これらの企画の実現性を検討し、平日、土日のプログラム計画について学習支援交流員と検討する。	・参加者を案内するには若干の問題点があった「居留地案内」のワークショップについて改善した。 ・居留地案内について、館東西の掲示板へのポスター掲示及びフェイスブックによって広報し、毎回参加者を得た。また、アンケートにおいて、90%以上の方が「良かった」と回答した。 ・参加者によりよいプログラムを提供するため、昨年度に開発したツールや居留地ガイド等のストックや内容の見直し、修正をはかった。 ・新規ワークショップの開発も進め、3月1日には企画発表会を実施することができた。 ・新規ワークショップについて、多様なプログラム案が交流員から提案があり、開発と経過発表を行うことができたことは、リニューアルオープン後の交流員活動のさらなる活性化に繋がる。	・休館中で新規募集を実施していないこともあり、学習支援交流員の数が減少し、ワークショップの技術継承が危ぶまれている。 ・講座・ワークショップの開発について、ほぼ担当職員のみが関わり、その他の学芸員の参加が少ない。

3-01-03　博物館の企画事業への参加状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
前年度実績　合計134回、611人 【館主催教育普及事業】33回、223人［ミュージアム講座の補助　6回、34人／ジュニアミュージアム講座等補助　12回、74人／他館と連携した教育普及活動　9回、75人／その他　6回、40人］ 【学校団体教育活動支援】48回、140人［学校団体来館応対　44回、105人／トライやるウィーク等の支援　3回、28人／博物館実習等の支援　1回7人］ 【その他の館活動支援】53回、248人［広報印刷物発送　4回、26人／特別展関連事業支援　23回、177人／一般来館応対　22回、30人／その他　4回、15人］	【館主催教育普及事業】　18回、参加者110人 ・「ミュージアム講座」資料配布、来場者誘導などの補助：6回、延べ16人 ・「神戸を知る、神戸に遊ぶ」補助：3回、延べ9人 ・「居留地を知る、感じる」居留地案内ワークショップ：2回、延べ18人 ・ジュニアミュージアム講座（内田家）炊飯ワークショップ：2回、参加者17人 ・文化庁補助事業「茅葺き民家で日本文化を体験民家」：参加者5人 ・「078クロスメディアイベント」における浮世絵摺り体験ワークショップ　参加者12人 ・「東灘うはら祭」における歩測体験ワークショップ、館バッジ作製　参加者13人 ・「ＲＩＣあそ美ば」における歩測体験ワークショップ、乾拓ワークショップ　参加者11人 ・2月11日「チョコレートで銅鏡づくり」ワークショップ　参加者9人 【学校団体教育活動支援】 ・リニューアル休館に伴い、学校団体教育活動支援はなし。 【その他の館活動支援】 ・広報印刷物の封入作業補助：3回　延べ31人 ・リニューアル休館中のため、特別展関連事業支援、一般来館対応は実績なし。	・交流員の自主的なワークショッププログラムの開発のみならず、博物館の企画事業について交流員の積極的な参加があった。館外で、しかも土日などの休日に事業が実施されるなか、スケジュールを調整の上、交流員が参加してくれることで、博物館企画事業を円滑に行うことができている。	・ほぼ定例会のみに出席し、企画事業への参加をしない交流員がいる。 ・館外での事業が多く、館側から参加人数の制限を実施したが、「参加人数を制限されると、ベテラン交流員から経験年数が浅い交流員へスキルの伝達が充分おこなえない」との意見が寄せられた。

3-02　学校との連携

評価　A 優れている

評価の詳細　学校との連携については、年間100校以上を目標としているが、平成30年度は143校と目標を大幅に上回る実施数となった。リニューアル休館中の試みとして、日本教育公務員弘済会兵庫支部の協力を得て、神戸市以外の県内各地域の学校とも連携できた点は評価できる。連携授業は受入校教員と協議し学習指導要領に沿って実施しているが、当館所蔵資料のレプリカを教材として用い、学芸員も同行することで、より専門性の高い授業となった。また、古代体験から水墨画、浮世絵摺体験まで、幅広い内容で実施できており、現場教員からの評価は高く、リピート率も高い。ただし、校種別では大半が小学校であることから、中学校用授業プログラムの構築や周知方法の検討が課題である。
おきしお号の出動は広報効果もあり、出動回数は増加したが、職員の負担軽減やドライバーの確保など検討すべき課題もある。
リニューアル休館中であることから、今年度の教育普及事業は文化財課や小磯記念美術館に協力を得て会場を確保した。また、歴史たんけん隊は、これまでは基本的に子供のみを対象としていたが、今年度は親子で参加できる企画とするなど工夫を図った。また、今年度は、近代洋風建築や茅葺民家などの文化財的建造物を活用できたことで、充実した内容となった。応募も多数あり、参加者からも高い評価を得た。いずれも博物館外での実施となったが円滑に事業を実施できた点は評価できる。中高生が参加したいと思えるような企画の検討が今後の課題である。
おきしお号見学者の鑑賞をサポートするコンテンツとして作成したワークシートは、クイズ形式を取り入れたことで、利用者からは好評を得られた。また、神戸の歴史展示に関する子供向けガイドについては、リニューアルオープンに向け制作を進めている段階である。
大学との連携については、連携協定を結ぶ神戸松蔭女子学院大学と神戸市外国語大学と、連続講演会や文化庁補助事業を通じて連携することができ、より充実した事業に結び付いた。特に神戸松蔭女子学院大学からは多くの学部・学科の協力があり、大学・博物館双方の強みを活かすことができた点は評価できる。また、博物館の学芸員が出講する「神戸研究総論」が同大のカリキュラムに組み込まれ、来年度も継続実施することが合意された点も評価できる。一方で、事業の実施にあたり認識の違いから、双方の意思疎通がうまくいかなかったこともあった。綿密なコミュニケーションを取ることが今後の課題である。
一方、神戸市外国語大学とは必ずしも十分な連携がとれなかったことから、どのような連携が取れるのか議論していく必要がある。

3-02-01　連携授業などのアウトリーチ活動はどのように行いましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
【目標】 ・連携授業について、過去5年間100回以上実施されている。今年度も年間でのべ100回以上の実施を目標とする。 【過年度実績】 平成29年度：131校　9,026人／平成28年度：134校　10,102人／平成27年度：113校　8,667人／平成26年度：132校　9,453人	【スケジュール】 ・年度当初に校長会、学校に配布する博物館利用案内で連携授業プログラムを紹介。 ・4月当初から電話にて授業の受付を開始。日程調整、学校との打合せ、授業実施と進めた。 【学校数・人数等】 ・143校（小131、中9、高3）384時間（小358、中22、高4）、11,139人（小10,071人、中977人、高91人） （143校のうち日本教育公務員弘済会との連携授業（小 6）・市外　　） ・連携授業内訳： 古代体験19回／銅鐸1回／源平27回／西洋20回／伊能図20回／文明開化21回／浮世絵27回／水墨画7回／港1回 （このうち、日本教育校務員弘済会との連携授業：源平1回／西洋1回／伊能図1回／浮世絵2回／水墨画1回） ・学芸員の同行： 「古代体験」「銅鐸」「伊能図」「文明開化」「浮世絵入門」「水墨画に挑戦」「おきしお夢はこぶ号の展開」に同行。 学芸員7人、のべ31校の授業に同行、より専門的な講話、資料活用を実施。 【おきしお夢はこぶ号】 ・出動回数（28回）。 （このうち、日本教育公務員弘済会での出動（6回）） 29	・年度初めの2、3日で3学期の上旬までの予定が埋まってしまう程の人気がある。 ・館蔵作品や資料のレプリカを教材として用いることにより、当館自体にも関心を持たせることができた。 ・学習指導要領に沿った授業展開をしており、授業の進度や内容を深めることにも貢献することができ、現場の先生方にも好評を得ることができた。 ・学芸員が同行することにより、より専門性の高い連携授業をおこなえた。 ・上記の結果、リピート率が非常に高い。 ・おきしお夢はこぶ号の広報をすることで、昨年よりも出動する回数が増えた。	・小学校での連携授業が非常に多い反面、中学校での授業数が少ない。 ・おきしお夢はこぶ号の出動回数が増えたとはいえ、連携授業と比べるとそれほど多いとは言いがたい。

3-02-02　子供向けの普及事業はどのように行いましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【目標】　子供向けプログラムの開催は教育普及活動の重要な項目の1つである。開かれた博物館として、子供たちに博物館での学びの楽しさを最も効果的に理解してもらえる取り組みとして内容を精選しながら、積極的に実施していかなければならない。

【課題】　子供向けプログラムは多種多様なものが制作されており、展覧会に関連したものが大多数である。また、体験された方々からは多くの好評を得ている。しかしながら、リニューアル休館中であるため展覧会とからめることができない。そのため。神戸の各所にある文化財や施設とコミットし、魅力あるプログラムを制作しなければならない。また、中高生の参加人数が例年少ないのが現状である。

D実施内容

【こうべ歴史たんけん隊】

・7/28：参加者34人（子供18人、保護者16人）平清盛生誕900年にちなみ、市内の清盛ゆかりの地を貸切バスで探索。

探索先：布引滝、新神戸駅周辺で昼食、祇園神社、清盛塚、能福寺、来迎寺、大歳山遺跡

・3/23：参加者23人（子供13人、保護者10人）神戸の近代建築を貸切バスで巡る。

訪問先：移情閣、舞子公園周辺で昼食、相楽園（旧ハッサム邸、小寺家厩舎）、旧乾邸

【ジュニアミュージアム講座】　《かやぶき民家（内田家住宅）で昔の暮らしを体験しよう》（協力：文化財課）

・8/21：子供15人。源平合戦に関するお話とワークショップ、かまどでの炊飯体験。

博物館から源平合戦図屏風（一ノ谷・屋島）レプリカを持参、源平合戦の解説。

かまどで火吹き体験を行った後、篆刻印のワークショップ。炊きあがったごはんと味噌汁を試食。

・2/3：子供12人。節分の鬼に関するお話とワークショップ、かまどでの炊飯体験。

「来訪神　仮面・仮装の神々」をユネスコ無形文化遺産登録もふまえ、節分と鬼、鬼の面について解説を実施。

かまどで火吹き体験後、ちぎり絵で鬼の面作りのワークショップ。炊きあがったごはんと味噌汁を試食。

【浮世絵摺り入門講座】（会場：小磯記念美術館）

・10/6：子供18人。神奈川沖浪裏（葛飾北斎）、猫飼好五十三疋（一部、歌川国芳）、金魚づくしにはかあめんぼう（一部、歌川国芳）の復刻版木を用いての摺りのワークショップ。浮世絵の解説と実演後、参加者が摺り体験

【参加者の声】

神戸に住んでいるが、平清盛について知らないことが知れてよかった／神戸にたくさんの平氏ゆかりの地があり、実際に訪れる事ができてよかった／学校の授業で清盛は知っていたけど、史跡やゆかりの地は全然知らなかったので参加してよかった/学校で歌川広重を習ったばかりで、それより詳しいことが聞けて面白かった／摺りをしたことがなかったけど、とても楽しかった。また友達と参加したい／いろんな古いお家を知れたのとバスの時間があまったときにクイズ、楽しいことをしてくれたのでよかった。これからもこのイベントやほかのイベントがあったら参加したい／神戸ならではの、色々な文化がとり入れられていて、また神戸らしくておもしろいなと思った

自己評価の詳細 プラス面

・今年度の子供向けプログラムの開催は、リニューアル休館中であったが、神戸にある文化的建造物を活用し、充実していたものになった。

・ほとんどのプログラムで好評価を得ている。応募多数のため、抽選になるプログラムが多数である。

・広報については学校配布チラシや委員会だよりが主力になっているが、SNSで事前に発信することもできている。

・外部施設（内田家住宅）での開催だった「かやぶき民家で昔の暮らしを体験しよう！」の炊飯体験に関しては、参加者の集合から移動、参加者の解散まで問題なく無事に行うことができた。

・小学校から参加している家庭では、中学生になってからも参加しているところが多い。特に浮世絵のワークショップは中学生にも好評である。

自己評価の詳細 マイナス面

・中高生がより参加したいと思えるワークショップの企画・構築には至っていない。

・キャリア教育や生涯学習につながるような講座や高校生が参加しやすい仕組みが十分には構築できていない。

3-02-03　子供向けコンテンツはどのようなものを製作しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【子供向け博物館鑑賞ガイド】
・リニューアルオープン後、博物館に興味を持たせ、楽しみながら鑑賞し、学べる工夫がされたガイドを制作する。

【ワークシート】
・博物館に興味を持たせ、理解を深めることのできる、小学生～高校生を対象とするワークシートを制作する。

D実施内容

【子供向け鑑賞ガイド】
・リニューアルに向けて現在制作中である。ガイドの形状を従来の定型から変更する。

【ワークシート】
・おきしお夢はこぶ号の見学者向けに作成。おきしお夢はこぶ号に展示されたものを鑑賞しながらクイズ形式の問題を解くなど、楽しみながら鑑賞を進められるものを作成した。、参加者から好評を得た。
・「おきしお夢はこぶ号」　おきしお鑑賞用ワークシート
　おきしお夢はこぶ号イベントで配布　150人
　おきしお夢はこぶ号学校出動で配付　412人

自己評価の詳細 プラス面

【ワークシート】
・おきしお夢はこぶ号に展示する内容に合わせて製作したワークシートについては、イベント、学校出動等の際に配布し、多くの参加者・利用者から好評を得た。

自己評価の詳細 マイナス面

【ワークシート】
・おきしお夢はこぶ号の利用者用に製作したワークシートは、これまで蓄積してきた内容を発展させてものであり、新しい切り口とは言い難い。より参加型、探求型になるよう研究・改善していく必要がある。

3-02-04　大学との連携はどのように行いましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

・神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学との連携協定にもとづき事業を実施する。
・神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学と円滑な連携をはかり新規事業を立ち上げる。
・神戸松蔭女子学院大学のインターンシップ実習生を受け入れる。

D実施内容

【連続講演会「神戸を知る、神戸に遊ぶ」】　会場：兵庫県学校厚生会館　2階大会議室　3回210人
　9/22　「ミナト神戸洋食とその系譜」（神戸松蔭女子学院大学　教授　江　弘毅氏）　84人
　10/27　「神戸の中の漫画　漫画の中の神戸」（神戸外国語大学　准教授　山本昭宏氏）　70人
　12/22　「写真家中山岩太と戦前の神戸」（兵庫県立美術館　学芸員　相良周作氏）　56人
【神戸松蔭女子学院大学インターンシップ】
　1人受入。居留地ガイド翻訳、普及事業補助などを実施。　10日間80時間
【松蔭祭へのおきしお号出動】
　11/17　神戸松蔭女子学院大学の学生と教材の展示を実施。約250人観覧。
【「神戸の文化発信と人材育成」事業】
　文化庁「地域と共働した美術館・博物館創造活動支援事業」採択メニューとして協力実施
　①居留地ガイド翻訳：松蔭女子学院大学と連携
　②12/23　相楽園明治倶楽部：神戸松蔭女子学院大学と連携
　③1/19　内田家住宅での外国人のためのワークショップ：神戸松蔭女子学院大学と連携
【神戸松蔭女子学院大学「神戸研究総論」への出講】
　5～7月　6回
【インターンシップ受け入れ】
　8/14～12/28のうちの10日間（教育普及事業・英訳関係）　1人
　※2016/11/20付神戸松蔭女子学院大学と連携協定締結。

自己評価の詳細 プラス面

【神戸松蔭女子学院大学との連携】
・文化庁の助成を得て多くの学部、学科の協力のもと多様な事業が展開できた。
・博物館が資料を提供し、その資料をもとにスキルを持った教員や学生が事業展開する双方の強みを活かした事業となった。
・インターンシップを受け入れ、文化庁補助事業とも連動させて、居留地ガイドの英訳を製作することができた。
・神戸の大学と博物館にしかできない「神戸研究総論」の授業を実施し、来年度も継続することで合意できた。

【神戸市外国語大学との連携】
・「神戸を知る」において当館学芸員ではカバーできない神戸に関る漫画について講演があり、受講者に好評を得た。今後も博物館学芸員が専門外とする分野について協力体制を構築することが望ましい。
・BBプラザ美術館の英文パンフ作成について外国語大学の強みを活かした協力を得られた。

自己評価の詳細 マイナス面

・大学側と館側で、意識の違いから意思の疎通がうまくいかないことがあった。
・神戸市外国語大学と十分な連携ができなかった。

3-03　一般向け普及事業

評価　S 特に優れている

評価の詳細　リニューアル工事休館中であることから、神戸いきいき勤労財団やBBプラザ美術館、神戸市立小磯記念美術館と連携し、文化庁補助事業等も活用しながら、普及事業の充実に力を入れた。

例年開催している「ミュージアム講座」に関しては、参加費の事前納付を採用するなど、円滑な事業の実施を目指した。また、試験的に開催曜日を変更（木曜日→土曜日）したことで、新たな客層の開拓につながった。本事業は学芸員の日頃の調査・研究成果を発信する貴重な機会であるが、館蔵コレクションにテーマを統一して実施したことで、参加者からも概ね好評を得ることができた。

文化庁補助事業の一事業として実施した講座「学芸員と神戸をめぐる」は、他機関との連携により、多彩なプログラムを準備することができた。参加者からも高い満足度を得られており、神戸の新たな魅力の発信につながったと考える。

神戸市立小磯記念美術館に会場を借り、2回実施した「大人のための浮世絵摺り入門講座」は、いずれも多数の応募があり、市民が高い関心を持っていることがうかがえる。また、実際に多版刷りを体験できることから、参加者からも非常に高い評価を得られている。

全体として、各機関との連携により公共交通機関が使用しやすい会場を確保できたことで、参加者の利便性も高く、また事業の円滑な実施にも結びついたといえる。ただし、今年度は子供向けも含め、非常に多くの普及事業を計画・実施したことから、職員間や連携先との連絡調整や人員配置においては課題も残った。

3-03-01　一般向けの普及事業はどのように行いましたか？

自己評価　S 特に優れている

P課題と目標

各事業の概略、回数、参加人数、参加者の反応。
・ミュージアム講座、文化庁補助事業の実施回数・参加者数。
・参観者アンケート
・共催者・会場との調整をはかり、円滑な運営が出来たか。
・開催場所の選定は妥当であったか。
・幅広い層に参加いただくための工夫はしたか。

D実施内容

【ミュージアム講座（第22回）】　6回　411人
・当館学芸員の研究成果に基づく講座　会　場：神戸市勤労会館　　共　催：神戸いきいき勤労財団
　10/13 「中世人の願いを託すタイムカプセル（経塚の遺宝）」　（79人）
　11/24 「神戸の中世史はどのように伝わったのか」（64人）
　12/8 「立ち現れる聖性　神戸に坐すカミ、ホトケ」（74人）
　1/12 「聖フランシスコ・ザビエルの旅路―日本での昂揚・挫折・希望―」（65人）
　2/9 「やきもののかたち―神戸市博の陶磁器コレクション」（61人）
　3/9 「コレクションを創る―南波松太郎と秋岡武次郎の軌跡―」（68人）
　アンケートにおいて90パーセント以上の方に「興味をもてた」、「まあ興味をもてた」との回答を得た。
【講座「学芸員と神戸を巡る」（文化庁補助事業）】　5講座　10回　168人
・神戸の歴史や文化、その変遷を学ぶ講座　当館と連携ミュージアムの学芸員の解説をもとに、ワークシートを用いた事前学習と現地見学を実施　事前学習と現地見学で1講座、全5講座。
　①「いくさ場、神戸をめぐる 『平家物語』の舞台を訪ねて」9/15事前学習（神戸市勤労会館・19人）、9/29現地見学（21人）
　②「神戸の道と町」10/5事前学習（神戸市勤労会館・20人）、10/20現地見学（18人）
　③「神戸のパブリックアート探訪」11/23事前学習（BBプラザ美術館・15人）、12/9現地見学（14人）
　④「近代建築と神戸の歴史探訪」12/1事前学習（神戸市勤労会館・14人）、12/15現地見学（18人）
　⑤「異人館の画家・小松益喜の絵画紀行」1/13事前学習（神戸市勤労会館・17人）、1/27現地見学（12人）
・アンケートにおいて、8割以上の方に「よかった」「まあよかった」との回答を得た。通常では気付くことがなかった、さまざまな神戸の魅力を再発見し、深く感じることができたという意見が複数あった。
【大人のための浮世絵摺り入門講座】　2回　37人　6/16（19人）、8/18（18人）
・本格的な版木を使って木版多色摺りに挑戦　会場：神戸市立小磯記念美術館　2階絵画学習室
・アンケートにおいて、2回の参加者の全員から「よかった」との回答を得た。

自己評価の詳細 プラス面

・従来の講演・講座に加え、大人のための浮世絵摺り体験講座、文化庁の補助事業など例年にも増して質・量ともに充実した事業を展開することができた。
・リニューアル休館中であったため、他で会場を借りて事業を円滑に実施できた。博物館から徒歩圏内で主要駅に近い会場を借用できた。
【ミュージアム講座】
・博物館が休館中であったが、いきいき勤労財団との共催事業というかたちで勤労会館において実施することができた。
・土曜日を開催日としたことにより新たな客層を得ることができた。また、定員を超える応募を得ることができた。
・日頃の学芸員の調査・研究活動を講演にというかたちで深く、広く発信できた。
・参加費を事前納付としたことで、当日の受付を円滑に進めることができた。
・学習支援交流員の協力によって、参加者の誘導、、資料配布を適切におこなうことができた。
・参加者アンケートにおいて、「興味がもてた」、「まあ興味がもてた」が79パーセントをしめ、概ね好評であった。
【講座「学芸員と神戸をめぐる」】
（文化庁補助事業）
・他機関と連携し、当館の学芸員だけでは実施できない多彩なプログラムを実施し、神戸の多様な魅力を掘り起こし、参加者に発信できた。
・参加者の8割以上に好評価をいただいた。
【大人のための浮世絵摺り入門講座】

自己評価の詳細 マイナス面

・1日に複数の事業が重なることがあり、人員配置が厳しいことがあった。
・職員間、連携先との意思疎通の行き違いがある時があった。

3-04　地域との連携

評価　A 優れている

評価の詳細　リニューアル休館中であることもあり、地域や他団体との連携は質・量ともに例年以上に力を入れて実施した。近隣の大学や美術館・博物館との連携により、単独では実現が難しい魅力的な事業や、学芸員の専門性を生かした講座等を広く展開することができ、参加者からも高い評価を得た。
また、日本教育公務員弘済会兵庫支部およびみなと銀行文化振興財団からの助成を受け、バスツアーや歴史ハイク、連携団体から講師を招いての連続講座などを開催することができた。
ただし、多くの事業を円滑に実施するためには、十分な人員配置や、職員間・連携先とのより一層綿密な意思疎通をはかっていくことが課題である。
配付資料においては文字の大きさやレイアウトに配慮し、多くの画像を用いて、見やすく、理解しやすい資料やプレゼンテーション作りに努めた。また、高齢者や社会的弱者とされる方々の参加しやすいメニュー、環境・体制づくりを行った。特に学習支援交流員による居留地ガイドでは、簡便なワイヤレスマイクや関連資料掲示用のファイルブックを導入したことで、屋外での解説も聞き取りやすくなり、参加者の理解や関心も高まったと考える。
障害者に対する事業に関しては、30年度はリニューアル休館中のため、受け入れる環境・体制の確保が難しかったことから実施しなかったが、リニューアルオープン後にむけて、障害者に対する事業だけでなく、未就学児を家族に持つ方々へむけた新規事業などを計画している。

3-04-01　高齢者・障害者など社会的弱者に配慮したイベントはどのように行っていますか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・講演会、ワークショップなどの普及事業において高齢者などにも理解しやすく、参加しやすいメニューと教材、資料の作成をこころがける。 ・学習支援交流員が実施している居留地ガイドも高齢者、社会的弱者受入が参加しやすい方法を検討する。	・各種講座における配布レジュメやパワーポイントの文字ポイントを大きくし、高齢者にも分かりやすい資料づくりに努めた。 ・講座受付開始時までに椅子席を案内するなど、高齢者の身体への負担が少なくなるよう配慮をした。 ・屋外やマイク設備がない場所で、講座参加者に分りやすく伝えていくためにワイヤレスマイクを導入した。 ・屋外講座の参加者に講座内容を分りやすく伝える補助ツールとしてA3クリアファイルを導入した。	普及事業実施時に高齢者に配慮した資料づくりに努めた。	休館中ということもあり、障害者を対象としたワークショップや事業の計画をすすめることができなかった。

3-04-02　地域･他団体との連携はどのように行いましたか？

自己評価　S 特に優れている

P課題と目標

【勤労市民センターへの講師派遣】14件／【婦人大学への講師派遣】2件／【こべっこランドへの講師派遣】1件／【清風公民館への講師派遣】　1件　／【神戸生活創造センターへの講師派遣】　1件／【芦屋市立美術博物館への講師派遣】　1件【神戸ファッション美術館への講師派遣】　1件／【「おきしお夢はこぶ号」での各種イベント出展】6件／【地域の文化財に関する相談・協力業務】　17件／【近隣諸団体との協力・助成】　7件／【文化庁補助事業　アート　歴史　ファッション　神戸を知る】6件

D実施内容

【協賛事業】・・・各事業の詳細は別紙のとおり

みなと銀行文化振興財団協賛事業

①講座「神戸を知る　神戸に遊ぶ」（みなと銀行文化振興財団協賛事業）：評価シート「3-02-04」参照

②「居留地を知る、感じる」（みなと銀行文化振興財団協賛事業）：会場：高砂ビル　10/20（15人）、3/7（17人）

【移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の活動】　　地域イベント3カ所（神戸まつり、RICあそび場、松蔭祭）

【共催事業・協力事業】・・・各事業の詳細は別紙のとおり

①神戸いきいき勤労財団・神戸市立博物館連携事業による勤労市民センターの講座　　12回427人・・・各事業の詳細については別紙を参照、②婦人大学　12/19（44人）、1/9（55人）、③神戸シルバーカレッジ　1/29（133人）、④公民館との連携　10/3（玉津南・13人）、10/25（清風・32人）　、⑤日本教育公務員弘済会兵庫支部受託事業

11/17（34人）、3/2（20人）　、⑥兵庫県立考古博物館の事業参加　11/2・3、⑦神戸市立婦人会館出前トーク　9/6、⑧県立神戸生活創造センターセミナー　8/3「浮世絵・摺師に挑戦！」、⑨こべっこランド　中学生プログラム　8/9「国宝桜ヶ丘銅鐸の秘密　銅鐸のミニチュアを作ろう！」

⑩神戸の文化発信実行委員会の事業

10/21太山寺ワークショップ（小学生20人）　協力：太山寺 共同企画：BBプラザ美術館、12/23相楽園「明治にひたる1日　相楽園明治倶楽部」協力：神戸市立相楽園、THE SORAKUEN、文化財課　共同企画：神戸松蔭女学院大学、10/19内田家住宅外国人向けワークショップ協力：文化財課、11/4神戸市立小磯記念美術館「RICあそび場」（約4,270人）　協力：六甲アイランド地域振興会他

⑪その他：12/1台湾 國立故宮博物院南部院区「交融之美　神戸市立博物館精品展」（当館学芸員による現地ボランティアスタッフへの次年度開催展覧会の概要解説）

自己評価の詳細 プラス面

【文化庁補助事業及び「神戸を知る神戸に遊ぶ」】

・大学、美術館と連携し、博物館単独では難しい魅力的な事業を実施することができた。

【勤労市民センター、婦人大学講演会】

・特別展及び各学芸員の専門性にあわせて多様な講座を展開することができ、高い満足度を得た。

・各区の地域に連携した話は地域の魅力を再確認する機会ともなっている。

【居留地を知る・感じる及び学習支援交流員による居留地ガイド】

・幅広い層に参加いただくため、平日、土曜日の２日間、イベントを実施し。博物館が立地する居留地の魅力を改めて発信することができた。

・旧居留地のレトロビルである高砂ビルを会場とすることで、旧居留地地域との連携をはかることができた。

【助成金】

・みなと銀行文化振興財団から、講座実施に対する30万円の協賛金を得た。

・日本教育公務員弘済会からは50万円の受託料を得て、県内の小中学校へのおきしお号の出動や連携授業、神戸市内の史跡をめぐるバスツアーやハイクを行った。

自己評価の詳細 マイナス面

・1日に複数の事業が重なることがあり、人員配置が厳しいことがあった。

・職員間、連携先との意思疎通において行き違いがある時があった。

4. やさしさと安心の確保

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　令和元年11月のリニューアルオープンに向けて、非常用電源設備の設計、条例・規則の改正など、概ね計画通り準備を進めることができた。今後、オープンに向けて、館内案内業務（インフォメーション業務）やショップ・カフェ事業者の選定を行い、職員・スタッフの訓練などを進めていく。

4-01　施設管理

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　設備保守の委託先事業者と緊密に連携して、適切に維持管理・運営を行っている。
ただ、老朽化している設備が多く、今後とも注意を払って、維持管理を行うとともに、計画的に更新を進めていく必要がある。

4-01-01　現在の建物・設備の状況はどうですか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・法令で定期点検や訓練が必要な事項については、すべてクリアするべく予算計上し、執行するよう努める。しかしながら、建物、設備等古くなっているものもあり、現在の法令では合致しない「既存不適格」の部分もある。
・新しい法令等に合う設備や施設を更新していく必要がある。

30年度は、非常用自家発電設備の設計費用の予算が確保されたが、引き続き工事費用の確保に努めるとともに、他の設備機器の更新計画等を立案したい。

D実施内容

【通常点検業務】
・エレベーターや消防設備等点検、法定点検や修理を行い、法定点検をクリアするとともに、古い設備を更新し、
少しでも「既存不適格」部分をなくすよう努力している。
・法定点検である消防用連結送水管の耐圧試験の実施、耐用年数が到来した消火栓ホースの全数取替えを行った。

【営繕工事関係】
・非常用自家発電設備の設計業務が終了し、31年度の更新工事に向けての予算も確保できた。
31年9月の完成に向け、今後設備課との調整を行っていく。
・博物館リニューアル工事で、新たに空調設備機器やトイレの衛生器具が更新された。
31年度以降は適切に運転・管理を行っていく。
・政策会議において、博物館のライトアップ工事が承認され、予算の確保も出来た。
31年度は工事に向けて設備課との調整を進めていく。

自己評価の詳細 プラス面

・設備の更新については、設備総括管理業務を委託している業者と連携をとりながら、比較的大きな改修工事の予算確保が出来た。
・今後も、連携をとりながら計画的に設備更新をしていきたい。

自己評価の詳細 マイナス面

・経常的な予算の増額を確保することが困難な状況であるが、引き続き設備点検費等予算確保に努めたい。

4-01-02　上記の問題点の改善や、将来の不具合を想定した対策、建物･設備の長寿命化に向けた対策はどのように行いました

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・設備総括管理業務の委託業者との連携

設備等の情報共有を深めるとともに、計画性を持って設備保守点検等を実施したい。

D実施内容

・消防設備等点検結果の情報を共有し、設備点検の専門的な観点から補修等を実施した。

自己評価の詳細 プラス面

・常に情報を共有するよう勤め、設備管理に支障のないように心がけている。

自己評価の詳細 マイナス面

・設備自体が古いものが多く、部品確保が難しい中、予算増額が認められるよう努力したい。

4-02　警備・清掃業務

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　警備については、リニューアル工事期間中であるため、１人体制であったが、工事関係の警備員とも適切に連携を取り、概ね問題なく行うことができた。
清掃業務についても、リニューアル工事期間中であるため、１人体制で、概ね良好に実施できた。

4-02-01　博物館の警備業務はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・人的警備体制は、通常開館体制は2名。内1名は24時間勤務。通常休館日及び臨時休館日は1名24時間体制。 ・リニューアル工事期間中の業務体制の見直し。 仮眠時間の考え方等、契約単価の見直しを検討。	・リニューアル工事期間中であるため、警備員の常駐は1名とし休館日体制で警備に当たっている。 ・機械警備の契約更新が31年5月であるため、仕様書を作成し契約監理課宛契約要求を行った。 ・人的警備においても契約時期が31年5月であるため、仕様書を作成し契約監理課宛契約要求を行った。 内容については、10月末までは1名体制を継続し、11月からはリニューアルオープンで2名体制（1名は24時間勤務）で警備を実施する。休館日や臨時休館日については1名体制を実施。 ・人的警備においては、契約監理課より落札業者の通知を受けた。31年度は警備業者が変更となる。	・30年度の契約更新では、警備業者が変更となったが引継ぎ等良好で問題なく実施できた。 ・立哨警備及び巡回警備についても、特に問題なく業務追行できた。	・1名体制であるので、巡回警備等により通用口を閉鎖することがある。

4-02-02　博物館の清掃業務はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・清掃業務は、開館日が3名体制、臨時休館日が2名体制。 ・リニューアル工事期間中の業務内容及び体制の見直し。 リニューアル工事の推移を見ながら、契約更新の仕様書見直しを検討。	・10月に契約更新を行い、ファースト㈱から㈱アール・シーという新しい業者が落札した。 ・博物館はリニューアル工事中であり、工事範囲以外の清掃となるため1名体制で午前7時30分から12時までの体制で、館内事務室を中心とした清掃業務に当たった。 ・1名体制は、リニューアル工事の展示工事が終了する6月までの体制とし、7月から9月までは開館準備期間として、展示室を含めた清掃範囲とし、2名体制で午前7時30分から12時までの体制とした。	・契約更新も問題なく更新できた。 ・リニューアル工事中でもあり、清掃範囲が限られ作業員を1名体制とし経費の削減に努めた。	・特になし

4-03　緊急時対応

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　リニューアル工事中に伴い、電気設備関係等に支障をきたす事故が５件発生したが、いづれも適切に対応することができた。
台風･豪雨の影響で、外壁からの雨漏りが発生したが、応急措置をするとともに、補正予算で、補修を完了した。
ただ、雨どいの目詰まりなど、発見ができなかった場所もあり、今後計画的に点検を行っていく。
博物館防災計画等について、職員に周知徹底を図った。

4-03-01　緊急事態が発生した時の対応状況はどのようなものでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・何がいつ起きるかがわからないため、すべての職員・スタッフがどう対応するかをマスターしておく必要がある。 リニューアル後の展覧会では、非常時の伝達方法等検討。	・リニューアル工事において、工事に伴う事故が発生。 (1)機械警備防犯センサー断線事故（5月） (2)給排水工事における地階考古学習室への漏水事故（6月） (3)同上の場所において2度目の漏水事故（8月） (4)4階電気室内の床貫通孔穿孔作業で電気配管及び電気配線の切断事故（9月） (5)計装工事における収蔵庫用空調機の停止事故（12月） 上記5件の事故が発生したが、住宅都市局が対応した。 ・台風21号及び西日本豪雨時、博物館西壁面より雨水の漏水や玄関庇からの雨水浸入事案が発生。 緊急対応として給水パット等で水の浸入を防いだ。 ・補修費用として補正予算を要求し、工事を施工した。	事故発生直後に現場での確認を行い、住宅都市局へ通報。緊急対応を行った。	・工事工程の中では、個々の工事内容が把握できなかった。 ・玄関庇の縦樋の詰りに気がつかなかった。

4-03-02　将来起こりうる大規模災害時の対応はどのように策定･周知されていますか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・神戸市立博物館消防計画の改訂（必要な場合）。 ・博物館防災計画の改訂（必要な場合）。 消防改革や防災計画の周知の検証方法を検討。	・リニューアル工事中であったため、消防訓練は実施しなかった。 ・博物館防災計画改定に伴い、神戸市立博物館消防計画（人事異動の反映等）の改定、周知	人事異動に伴う修正を行った。	周知の評価が困難。

4-04　アメニティ関連のリニューアル

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　トイレ・授乳室については、リニューアル工事が終了し、快適な空間が確保できた。今後、備品等に調達を進め、アメニティの向上を図っていく。

4-04-01　トイレ、授乳室、保健室はどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・必要な機能について実施設計への反映 備品等初度調弁の調整をしていきたい。	・リニューアル工事が終了し、供用開始する3階及び地階トイレの衛生用品（便座クリーナー等）調達。 ・授乳室の備品、保健室の備品（ベッド、救急医薬品等）の調達を計画。	供用開始するトイレの衛生品の調達が出来た。	

4-05　リニューアル工事

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　リニューアル工事については、関係部署、事業者と連携を図り、概ね適切に対応できた。

4-05-01　リニューアル工事に伴う工事業者の業務管理はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・工事進捗状況の把握。 ・関係部署との連絡調整。	・2週に1回のペースで調整会議に出席。 ・工事進捗にあわせ、確認事項を会議で提起。	工事業者、住宅都市局との連絡がうまく調整できた。	図面に不慣れなため、工事内容が理解できていないところがあった。 （自火報設備、監視カメラ等）

4-06　リニューアル後の運営体制

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　ショップ＆カフェについては、工程どおり工事が進み、什器備品とあわせ、明治時代のトムセン邸と昭和時代の横浜正銀行時代の雰囲気が醸しだされた空間に仕上がっている。
１階無料化については、条例規則の改正を行うとともに、広報を行った。また、ミュージアムカフェ･ショップの事業運営者のプロポーザル公募の手続きを進めるとともに、インフォメーションの委託契約に向け、導線、配置計画を検討した。

4-06-01　1階　ショップ＆カフェはどのように進捗しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・近代の神戸を体感でき、カフェとしてもゆっくりとくつろぐことができるカフェ空間の構築を目指す。
・設計どおりに遅滞なく建築工事、展示工事を進める。
・リニューアル後のカフェとショップのコンセプトを理解し、スムーズに運営することができる運営主体の選定方法について、管理課と協議しながら進めていく。

D実施内容
・工事実施業者と協議の上、工程通り工事が進捗。
・カフェで使用する旧トムセン邸使用部材。家具についても適切に選定し取り付けを実施。
・カフェ・ショップの運営事業者選定のための事務手続を適切に実施。4月からの運営事業者募集の準備を進めた。

自己評価の詳細 プラス面
・工程通り工事を実施することができた。
・常設展示していた「旧トムセン邸」の部材を活用した明治時代の空間と横浜正金銀行の昭和の空間をあわせもった、神戸の近代を体感しながらくつろげるカフェ空間を実現することができた。
・ショップについてもカフェの銀行時代の雰囲気と統一的な意匠で、かつ機能的な空間に仕上げることができた。

自己評価の詳細 マイナス面
・「旧トムセン邸」の部材や家具のうち、リニューアルによって利活用できない資料の保管が新たな課題として発生している。
・カフェに設置する図書についての選定が十分進まなかった。

4-06-02　1階無料化に伴う運営体制案はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・インフォメスタッフの人員配置検討。
・ライブラリカフェの検討。

学芸課、管理課と詳細な詰が必要。

D実施内容
・ミュージアムカフェ・ショップ運営事業者の募集要項検討。
・インフォメスタッフについては、今後学芸課と調整。

自己評価の詳細 プラス面
・博物館条例改正及び規則改正が完了した。
・行政財産使用許可については、資産活用課との連絡調整がうまく出来た。
・期限内にカフェ・ショップの募集要項が出来た。

自己評価の詳細 マイナス面